LION

HEADLINE
山田實紘国際会長
国際本部初登庁

ふるさと探訪
香川県綾川 - 讃岐うどん発祥の地
は、うどん県・香川のど真ん中

今月の特集

全日本ライオンズ若手フォーラム

9

SEPTEMBER 2015 WWW.THELION-MAG.JP
ライオン誌（毎月20日発行）第58巻第3号 2015年8月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書／ライオン誌創刊号復刻版

ライオンズ新書01
ライオンズ力を高める
第1版第2刷

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。
新書判 224ページ
1部500円・送料実費

●大口注文割引
100～499部＝1部450円
500部以上＝1部400円

ライオンズ新書02
LCIF早分かり
第1版第3刷

ライオンズクラブ国際財団の目的や仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。
新書判 176ページ
1部400円・送料実費

●大口注文割引
100～499部＝1部350円
500部以上＝1部300円

『ライオン誌』日本語版 創刊号復刻版
第1版第5刷

1958年創刊の『ライオン誌』日本語版を復刻。日本にライオニズムがもたらされて6年目、誌面から草創期の活気がひしひしと伝わってくる。
B5判 68ページ
1部300円・送料実費

●大口注文割引
100～499部＝1部250円
500部以上＝1部200円

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・**ライオンズクラブ入門**
第3版第5刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

中級編・**クラブ運営の基礎知識**
第3版第3刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

上級編・**リーダーシップを養う**
第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●大口注文割引（ライオンズスクール・シリーズ）：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

■合計で2万円以上ご注文の場合、送料無料（組み合わせは問いません）。※ただし、急ぎの場合は実費請求
■お申し込みはEメール（office@thelion.jp）またはファクス（03-3546-2630）でお願いします

LION MAGAZINE IN JAPAN
September 2015, Vol.58 No.3

We Serve CONTENTS

■2015年9月号
表紙
山口県周防大島町
写真／鈴木秀晃

4 国際会長メッセージ ●「多様性は私たちの強さの源泉」

5 HEADLINE ● 山田實紘国際会長が国際本部へ初登庁

6 SCENE ● 東京豊島／岩手県盛岡観武

10 CLUB REPORT
10：東京ウエスト／12：北海道岩見沢中央／14：栃木県今市／14：大阪府藤井寺／15：332-C地区第1リジョン第3ゾーン／15：熊本城東／16：神奈川県秦野丹沢／16：新潟県新発田／17：三重県四日市／17：高知黒潮

18 3分間ライオンズ・アクティビティ編 ● 青少年奉仕　レオクラブ①

19 Foundation Impact

20 LCIF FILE ● LCIF創設50周年記念目標前期報告

22 福岡国際大会

23 特集 ● 全日本ライオンズ若手フォーラム
ライオン誌日本語版委員会とグローバル指導力育成チームが共催したフォーラムには全国35地区から370人が参加。100周年記念奉仕チャレンジの活動と、次世代リーダー育成の二つのテーマで熱のこもったディスカッションが行われた。

32 国際理事だより ●「国際理事候補者から国際理事へ」安井克之

33 LIONS NEWS CASSETTE
33：「和」をテーマに青少年が集った世界スカウトジャンボリー／33：第1回日本ライオンズ・ガバナー協議会開催／34：新体制になったLCIF理事会／34：336-B地区と県赤十字血液センターが献血推進事業で連携協定締結／35：2014-15年度ライオン誌日本語版ベスト・エッセー賞／36：ホノルル国際理事会決議事項要約

38 3.11リレー連載 ● 立谷健二（福島県相馬）

39 獅子吼
39：森一男／40：燕昇司正夫／41：田崎登保／42：村上正郎

44 ライオンズを探せ ● 島根県松江

46 Close up ● 博多屋敏昭

48 ippin ● 福島県川俣町 川俣シャモぶっかけ親子丼

49 ふるさと探訪 ● 香川県綾川町

54 READERS ROOM
54：読者から／読者プレゼント
55：もう一度読みたい「あの記事」●「『総意』というものの評価」

56 EDITORS ROOM
56：ライオン誌例会のススメ／次号予告
57：編集室 ●「ホノルル国際大会に参加して」石井博之

58 日本ライオンズクラブ　分布図

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Dr. Jitsuhiro Yamada
Lions Clubs International
President

多様性は私たちの強さの源泉

日本では、サムライの生き方の指針とされた「武士道」という精神が、社会の価値観に大きく影響しています。サムライについては良い面も悪い面もあると思いますが、秩序を維持し、平和を守る存在でありました。また、武士道の伝統的な善き価値観として、忠義を重んじ、年長者を敬い、弱者をいたわり、誠と名誉を重んじるという点が挙げられるでしょう。

全ての文化には独特のすばらしい価値観があり、ライオンズクラブ国際協会を構成する210の国と地域の一つひとつが、私たちの強さと活力に貢献しています。ライオンズという色とりどりの織物の強さと柔軟さは、それぞれに異なる糸によって編まれることで成り立っているのです。

つまり、多様性こそが私たちの強さの源泉です。私たちは型通りのものの集まりではありません。“One size does not fit all.”——一つの型に全てが当てはまることはありません。クラブは自由に自らの行うプロジェクトを選び、自らの会員を勧誘します。私たちが多様性を重視しクラブがそれをより良く体現すればするほど、私たちはより力強く発展していくのです。

ですから、今年、私はクラブに引き続き女性、若手、そしてミドルエイジの人々を勧誘し、会員の各階層で多様化を推進してほしいと思います。多様な会員を得ることで、クラブは新しい視点を持ち、エネルギーを再活性するのです。

同様に、新しいプロジェクトを試すことをためらわないでください。私たちは固くなったパンや古いご飯を食べたくないのと同じように、古臭くなったようなクラブには入りたくないはずです。新しく若々しく新鮮なクラブに変えていく勇気を持たなければなりません。そしてまた、私たちは協力していかなければいけません。チームワークの力を説いた、ある古い逸話があります。かつて、毛利元就という名将が3人の息子たちに、1本の矢は簡単に折れてしまうが、3本束ねれば力強い男性の手でも折ることが出来ないことを示しました。ここで説かれていることは明白です。アメリカ人も、同じことを意味する言葉を持っています。“United we stand, divided we fall.”（団結すれば立ち、分裂すれば倒れる）。140万人のライオンズ・ファミリーが力を合わせれば、地球上のいたる所に奉仕の光を届けることが出来るのです。

ですから今年は、ぜひサムライ精神を大いに発揮しましょう。ライオンズの皆さん、サムライになってください。もちろん、奉仕活動に出掛ける時にはよく切れる刀は家に置いて、サムライ・スピリットだけを持っていくようにしてください！

2015-16年度国際会長
山田實紘

※このメッセージの原文は国際協会公式ウェブサイトに掲載されています
http://www.lionsclubs.org/EN/about-lions/our-leadership/meet-the-leaders/presidents-message.php

HEADLINE

国際会長執務室で→

↑職員一人ひとりと言葉を交わす山田会長

ホノルル国際大会で第99代ライオンズクラブ国際協会会長に就任した山田實紘国際会長が、8月3日（日本時間4日）、アメリカ・イリノイ州オークブルックの国際本部へ初登庁した。前夜は激しい雷雨や竜巻に見舞われたイリノイ州だったが、この日は朝から山田会長の初登庁を祝福するかのような爽やかな晴天に恵まれた。午前9時前、山田会長夫妻がスコット・ドラムヘラー事務総長の先導で本部へ入ると、職員全員がエントランスホールで歓迎。

山田会長は「今年はライオンズにとって100周年を目前に控えた大事な年であり、皆さん一人ひとりの力が必要です。この1年、私と一緒に働いてください」とあいさつ。その後、夫妻は本部内を回り、各部課長から担当する仕事について説明を受け、職員一人ひとりと言葉を交わしながら、国際会長ピンを手渡した。国際会長初登庁では、会長の「おごり」で職員にランチをごちそうするのが恒例となっており、本部のエントランス前には仮設の昼食会場が設営された。メニューは日本人職人による寿司や、ハンバーガー、ホットドッグ、アイスクリームなどで、職員たちはホストである山田会長夫妻の出迎えを受けながら、会長ランチを楽しんだ。

この日はまた、山田会長所属の334複合地区による国際会長就任記念植樹の披露もあった。セレモニーには丸山正芳元議長、加藤助太郎、笠原文武両元地区ガバナーが日本から駆けつけ、安井克之、佐藤宜之両国際理事、栢森新治LCIF理事、鈴木誓男アポインティー立ち会いの下、プレートの除幕式が行われた。

SCENE

東京豊島ライオンズクラブ

取材／井原一樹　写真／内田明人

夏の暑い一日に最高の思い出を。ウオータースライダーとバーベキュー

7月25日、東京・池袋の池袋本町公園にウオータースライダーが登場した。これはNPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークが東京豊島ライオンズクラブ（柳秀夫会長／48人）の協賛を得て設置したもの。昼過ぎからはバーベキューや焼きそばも無料で振る舞われた。

東京豊島ライオンズクラブは今年、結成50周年を迎えた。少子高齢化が進む背景もあり、子どもを対象とした事業を探していた。そこでメディアに何度も取り上げられている豊島子どもWAKUWAKUネットワークと協力して何か出来ないかという案が出たところ、ライオン大庭明彦がウオータースライダーの設置を毎年手伝っていることが判明。その縁もあって話が進んだ。

当初はクラブ・メンバーがウオータースライダーの運営を手伝う予定だったが、安全性を保つため、慣れているボランティアに担当してもらうことにした。代わりにメンバーが腕を振るったのがバーベキュー。元々、クラブ内外の行事で数多く実施してきたため、その手つきは慣れたもの。大量の食材を皆で手分けして調理していく。これらの材料費もクラブの協賛金から出たものだ。

ウオータースライダーとバーベキューで夏の一日を満喫した子どもたち。暑さも忘れ、終始楽しそうに過ごしていた。

クラブでは今後もこの事業を含め、子どもを対象にした事業を増やしていく予定だ。周年事業から継続事業へ。クラブが100周年を迎える頃まで続けていこうと考えている。

NPO法人
豊島子ども
WAKUWAKU
ネットワーク

SCENE

岩手県・盛岡観武ライオンズクラブ

取材／砂山幹博　写真／宮坂恵津子

雨ニモマケズ、掲げた万灯。忘れられない夏休みの前夜祭

1学期の終業式があったその日の夜7時、校庭の一角のある小高い丘「イーハトーブ山」にのろしが上がり、盛岡市立月が丘小学校万灯祭は幕を開ける。かつて広大な練兵場があった場所が宅地開発され、1977年4月に同校が開校。近隣の二つの小学校から児童が転入してきた。背景の異なる児童らの融和策として月が丘小が考えたのが、盛岡に古くから伝わる万灯祭の開催だった。最近は見かけることが少なくなったが、七夕の日に工夫を凝らした手作りの万灯を持った子どもたちが町内を練り歩く無病息災を祈る祭だ。郷土の文化的な行事を通して豊かな学校生活を育んでもらう狙いの他、郷土の偉人宮沢賢治の作品名にちなんで校庭に作られた「ポラン農園」の豊年満作を願う収穫祭も兼ねている。

祭が始まってすぐ大粒の雨に見舞われたが、降りしきる雨も何のその。町内会ごとに分かれてグラウンドに待機する児童が持つ万灯に火がともされると、校庭にぼんやりと光の輪が浮かんだ。

盛岡観武ライオンズクラブ（佐藤博蔵会長／43人）は3年前から、万灯祭を財政面でサポートする他、クライマックスで上げる花火を協賛。会員らで作ったライオンズ・ロゴ入りの担ぎ万灯で、児童らに交じりグラウンドを練り歩く万灯行列にも加わった。

浴衣はびしょ濡れ、雨で万灯を覆う紙が破れた子どももいたが、雨にも負けず最後まで祭をやり遂げたことは、子どもたちにとっても忘れられない思い出となるに違いない。

CLUB REPORT クラブ・リポート

330-A地区

東京ウエスト ライオンズクラブ

関東各地へ毎年遠征
身体障害者水泳大会の協賛

6月14日、長野県障害者福祉センター「サンアップル」の室内プールで第29回関東身体障害者水泳選手権大会が開催された。主催は関東身体障害者水泳連盟。東京ウエスト ライオンズクラブ（小倉豊会長／50人）が協賛している。

この大会は毎年、5月か6月の半ばに実施される。開催地は関東甲信越各都県のいずれか。昨年は東京都、今年は長野県で開催された。13年前から東京ウエスト ライオンズクラブではどこの都県で開催されても、メンバーを派遣して運営の手伝いや表彰などを担当している。今大会も6人が東京から駆け付けて、大会の成功に寄与した。また、10年前から協賛金も出すようになった。

大会に参加するためには各地区の予選を勝ち抜く必要がある。パラリンピックの予選も兼ねており、大会に出るにもかなりの努力が必要だ。関東各地からこの日のために準備をしてきた選手たちが集結した。

クラブがこの大会に協賛するようになったのは、ライオン庄子守が成田真由美さんと知り合いだったのがきっかけだった。30年ほど前、ライオン庄子は重症筋無力症を患って、入院した。その時、3カ月ほど隣の病室に入院していたのが、まだ中学生くらいだった成田さんだった。その後、彼女はパラリンピックで15個もの金メダルを獲得する。成田さんを通じてこうした水泳大会があることを知ったライオン庄子がクラブに提案し、人的支援及び協賛をするようになった。

視力障害のある選手には壁の位置を知らせるための合図が出される

●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。送付先は57ページ下。

この大会は規模が大きい上、日本代表を決める全国大会の予選を兼ねているため、運営には細心の注意が必要になる。今回、メンバーが割り当てられたのは、招集係及び表彰・賞典係など。これまでの大会では、プールサイドでスタート位置につく選手を補助する役割を担ったこともある。プールサイドは熱気がこもり、かなり暑い。それだけでも大変なのに、補助の際、体のどこに触れるかにも神経を使う。また、さまざまな種類の障害を持った人が参加しているため、それぞれに対応する必要もある。不公平の無いように、選手に不快な思いをさせないように運営を進めていくのは思いの外大変だ。

だが、この事業に参加することでクラブにも大きなメリットがある。新しく入ったメンバーにとっては新鮮であると共に、実際に汗を流して行うことで、奉仕への考え方も大きく変わるようだ。

2020年には東京でパラリンピックが開かれる。明確な目標が出来たこともあり、開催決定以降、小中学生を中心に、より熱い戦いが繰り広げられているという。クラブでも、その熱気を盛り上げるよう、毎年この大会を協賛し、運営の補助をする予定だ。

（取材／井原一樹　撮影／内田明人）

331-A地区

北海道・岩見沢中央ライオンズクラブ

生きがいと健康づくりにとどまらない高齢者によるスポーツの祭典

「参加すること自体に意味があるとは思いますが、参加するからには昨年より上を目指しますよ。どこの老人クラブでもそうじゃないですかね」

とは、昨年の岩見沢シニア交流会で優勝したチームの代表の言葉。

岩見沢市内の高齢者らが静かな闘志を燃やしつつ、年に一度の参加を楽しみにしているのがシニア交流会。老人クラブ同士のスポーツ交流を通じて高齢者の健康増進や生きがいづくりを目指す目的で、1974年に岩見沢スポーツセンターで第1回大会が開かれて以来、毎年開催されている歴史ある大会である。主催は市老人クラブ連合会。岩見沢中央ライオンズクラブ（寺江博会長／51人）が第1回から運営面で協力を続けている。今年も7月18日に同会場で42回目となる大会が開催され、市内に94ある老人クラブのうち30のクラブから760人が集い汗を流した。

団体戦と個人戦でそれぞれ四つの競技が用意され、団体戦での1位から6位までの各入賞者に点数が与えられる。順位は所属老人クラブごとの総合点数で決められる。競技は市老人クラブ連合会によって、参加者に負担のかからないものが選ばれている。例えば、軍手をはめて一斉にスタートし、途中で2カ所に置かれている床の5円玉を拾いゴールを目指すものや、ペットボトルの底にボールを載せて落とさないように走るもの。約15㌢角のビーンバッグを、傾斜したボードに向かってアンダースローで投げ、得点を競うバッゴーゲームといった競技などが選ばれている。

概ね60歳以上の高齢者が所属する地域の老人クラブでは通常、健康づくりや地域のゴミ拾いなどの奉仕活動、各種レクリエーションが行われ、他のクラブとスポーツで競い合う活動は無い。そのため参加者はシニア交流会ではどうしても熱が入る。冒頭でコメントを紹介した前年度優勝チームでは、1週間前から一通り全ての競技の練習を行い、25人の選手を選抜してシニア交流会に臨んでいる。恐らく多くの老人クラブで同様の準備が行われているという。

市老人クラブ連合会の作田重行会長からこんな話を伺った。

「毎年、参加者に楽しんで頂いている大会ですが、そもそも開催のきっかけを作ってくれたのが岩見沢中央ライオンズクラブです。今もライオンズの協賛がなければ、この事業は続いていなかったと思います」

前日から会場設営の準備を行い、参加者へ渡すトロフィーを用意するだけではなく記録係を

担当するなど、競技に夢中の高齢者を陰で支えるライオンズの活躍は欠かせないものとなっている。

（取材／砂山幹博　撮影／関根則夫）

333-B地区

栃木県・今市ライオンズクラブ

第31回今市ライオンズクラブ杯 日光市中学生硬式卓球大会

6月21日、今市ライオンズクラブ（吉岡賢二会長／40人）は日光市立大沢中学校体育館で今市ライオンズクラブ杯日光市中学生硬式卓球大会を実施した。この大会は1984年（島田賢会長・福田幸信幹事）からクラブ主催で実施しているもので、今年は第31回目となる。

当クラブでは日光市内の全中学校の卓球部所属生徒全員を対象に参加を呼び掛けてこの大会を開催しており、今年は、193人（男子106人・女子87人）が個人選手登録、男子6チーム、女子4チームの計10チームが団体の登録をした。

当日、生徒の集合は朝8時30分だが、クラブ会員は朝の8時に集合し、準備にかかる。

試合開始から夕方の5時近くまで熱戦が繰り広げられた。当クラブ・メンバーも、将来この中から優秀な選手が出てくれば、という思いで熱い声援を送った。

卓球は、今でこそ、人気選手の活躍によりメジャーな競技になったが、この大会を始めた当初、子どもたちの人気スポーツは野球・サッカー等。どちらかといえばあまり陽の当たる印象はなく、体育館の隅の方で練習している風景が思い浮かぶような競技だった。そのため、卓球を支援する団体もなかったが、当クラブではこれに注目。31年前からスポットを当てて支援してきたのである。

また今回は、第1回大会参加者のご子息が参加されるなど、継続の意義を感じる大会だった。この伝統ある事業をこれからも継続し、ますます充実した大会となるよう努力を重ねていく。

（広報委員会／小林勇）

335-B地区

大阪府・藤井寺ライオンズクラブ

市内の人々に資源の再利用を 商店街でリユースイベント

藤井寺ライオンズクラブ（45人）は5月8～9日、近鉄南大阪線藤井寺駅前のまちかど情報館「ゆめぷらざ」でリユースイベントを開催した。リユースとは、ゴミの削減や住まいのスペース確保、資源の有効活用・環境保護を目的として、誰かが使わなくなったものを、基本的にそのままの形で再利用する（誰かに使ってもらう）こと。今回のイベントでは家の中で眠っている不要品を市民の皆様に前もって提供して頂き、希望者に無償で譲る催しだ。担当委員長は「不要品を集めるためにメンバー一丸となり市内にチラシ1万3千枚をポスティングしたところ、たくさんの問い合わせがありました。そこで1軒1軒伺い、食器や雑貨、衣類、靴から折り畳みベッド、高齢者の歩行器までさまざまな種類の品物（1・5トン車3台分）を回収し、このイベントに出しました。今イベントは2日間、約240人の来場があり、欲しい物を持ち帰って頂くと、品物はほぼなくなりました。来場された方からは『次回はいつ？』『うちの不要品もこんな形で協力したい』という声をたくさん頂き、啓発活動に大きな手応えを感じました」とうれしい悲鳴を上げた。

また、この事業ではガバナー方針の「街に出て市民に顔の見える奉仕活動を」にのっとり、市民に我々の活動をアピール出来た。更に本事業はライオン歴の浅い若手中心の委員会が発案・企画したもの。若手発信の事業に皆で参加することにより奉仕の充実感とクラブの一体感を経験出来、まさに一石三鳥であった。

（会長／岡田行史）

332-C地区

第1リジョン第3ゾーン(宮城県)

東日本大震災支援合同事業 1泊2日のツアー旅行を実施

5月9日から10日にかけ、332-C地区の第1リジョン第3ゾーンは東日本大震災支援合同事業を実施した。これは、石巻小渕浜仮設住宅在住の親子を対象とした1泊2日のツアー旅行。参加した親子の大切な思い出作りに協力出来ればと子どもたちの喜びそうな場所を選んだ。

今回の事業は仙台青雲ライオンズクラブが音頭をとり、仙台エコー、仙台南、仙台第一、仙台コアライオンズクラブのメンバーが参加。また、アメリカ・ロサンゼルスのLAリトルトーキョーライオンズクラブからも3人のメンバーが参加した。仮設住宅からはお子さん12人、保護者8人が参加し、引率者は石巻中央ライオンズクラブのライオン阿部浩が務めた。

1日目の小岩井農場ではジンギスカンの昼食。普段見られない農場の裏側をバスで巡った後は、親子で木工体験をした。2日目のえさし藤原の郷では、ガイドさんと園内を歩いて歴史を学び、ハマグリの絵付けを体験した。はっと汁など郷土色あふれた昼食後の自由時間では、平安時代を思わせるスポットを親子で巡って楽しんでいた。

後日、保護者代表の木村美輝さんから「子どもたちが目を輝かせて旅行の話をしています。本当にありがとうございました」と、お礼の言葉も頂いた。

高台移転の工事がなかなか進まず、あと数年は仮設住宅で過ごさざるを得ない親子のために、これからもライオンズとして出来る範囲での支援を続けていきたいという気持ちを、参加した全ライオンが共有したアクティビティとなった。(仙台青雲ライオンズクラブ/小泉知加子)

337-E地区

熊本城東ライオンズクラブ

龍山学苑の子どもたちが泥んこになって田植え体験

熊本城東ライオンズクラブは今年9月に結成5周年を迎える。当クラブはインターネット例会を取り入れたり、例会をパーティー形式にしたりと創意工夫をしながら、若い会員も入会しやすい環境を整えてきた。こうした努力のかいもあり、結成以来順調に成長した今では、会員数が47人、平均年齢49歳の若い方が主流のクラブとなった。

当クラブでは6月21日、結成5周年記念の青少年事業として、児童養護施設龍山学苑の子どもたちとの田植え会を企画、実施した。場所は三村浩一会長所有の水田。龍山学苑からは26人の子どもたちと施設の職員5人が参加した。子どもたちは水着を着用。泥んこになるのを楽しみにしていたという。

田んぼに恐る恐る入っていた子どもたちだが、しばらくすると喜んで泥まみれになりながら、田植えに挑戦していた。田植え初体験の子どもたちには三村会長が見本を見せる。それでも苗の本数がばらばらになって、植え直す必要があるなど、大変だった。

終了後は体を洗い、バーベキュー・パーティーを実施した。三村会長夫人の手作りおにぎりや、おいしいスイカに子どもたちは大感激。楽しい1日となった。

ここで収穫される米の一部は龍山学苑へ寄贈し、自身が植えたお米を食べる喜びを知ってもらう予定だ。龍山学苑の子どもたちからは「来年もまた田植えを体験させてください」との手紙をたくさん頂き、感動している。We Serve

(元会長/松田博彦)

330-B地区

神奈川県・秦野丹沢ライオンズクラブ

結成35周年記念事業 盲導犬ふれあい広場

秦野丹沢ライオンズクラブ（石井時明会長／21人）は6月7日、盲導犬育成支援事業を開催した。

この事業は、元々、25周年記念事業をきっかけに始まった「がんばれ盲導犬」事業。今年で10年間継続事業となっている。今回は、秦野市民を対象にイオン秦野店にて開催した。

当クラブでは毎年、日本盲導犬協会と協力して市内の13の小学校において、盲導犬普及のための授業を行っている。10年前、最初に授業を受けた方は既に成人しており、秦野市内での盲導犬に対する知識は広がっていると思われる。今回は子どもだけでなく一般市民の方にも広く知って頂こうと「盲導犬ふれあい広場」を企画した。これは、今回で2回目となる。

視覚障害者と盲導犬に対する健常者の対応方法の講演をして頂いた他、実際にアイマスクをして歩行体験が出来るコーナーも設置。また、盲導犬支援グッズの販売や盲導犬支援募金が出来る場所を設けるなど、盛りだくさん。これらをクラブと協会とで協力して行うことが出来た。

当日は公益財団法人日本盲導犬協会へ20万円の支援金と盲導犬が使用するPRコートとハーネスバッグも同時に寄贈し、協会から感謝状も頂いた。

この日、会場には200人以上が来場。来場者は盲導犬の仕事ぶりに大変驚くと共に、感心していた。

当クラブでは今後もこの活動をメーン事業として捉え、長く、広く、多くの方に普及させることを改めて確認し、記念事業を終了した。

（幹事／高橋克実）

333-A地区

新潟県・新発田ライオンズクラブ

赤穂浪士がつなぐ縁 泉岳寺で友好クラブ締結

5月31日、新発田ライオンズクラブ（72人）は兵庫県の赤穂ライオンズクラブと友好クラブの締結式を開いた。場所は東京高輪にある泉岳寺の境内だ。赤穂ライオンズクラブからは金礪（かねと）正和会長を始め、役員の方々が出席。当クラブからも関川正利会長を始め、三役が出席した。

兵庫県赤穂市は忠臣蔵で有名な土地だ。赤穂義士の中でも剣豪で知られる堀部安兵衛の生誕地が新発田である縁もあり、両クラブの友好クラブ締結の運びとなった。

この締結に至ったのは、それに加え、締結式の仲人を務めてくださった新発田市出身で脚本家の杉山義光さんの功績が大きいだろう。杉山さんはここ数年、仕事の関係で赤穂市に行くことがあり、その際に金礪会長と知り合いになったという。そして、たまたま杉山さんが関川会長とも友人であったことから、友好クラブ締結の話が持ち上がった。昨年12月には関川会長が赤穂ライオンズクラブの例会を表敬訪問し、今年2月には赤穂の金礪会長が新発田ライオンズクラブの例会で講話をしてくださった。

締結式はぜひとも、両地ゆかりの泉岳寺で、浅野内匠頭や四十七士の眠る墓の前で行いたいと意見が一致して場所が決まった。

赤穂市は瀬戸内海に面した温暖な地。かたや新発田市は荒々しい日本海を臨む場所だ。今回、友好クラブとなったことで、お互いのクラブの発展はもとより、観光や物産などさまざまな面で協力していこうと、両クラブの会長は握手を交わした。

（幹事／菊地政博）

334-B地区

三重県・四日市ライオンズクラブ

音楽でつながる 青少年「夢の祭典」の実現へ

それは豊田良郎名誉顧問のこんな言葉が始まりだった。「青少年に質の良い音楽を聴かせてあげたいなあ」。

四日市ライオンズクラブ（遠藤富之会長／146人）は青少年健全育成を目指して、薬物乱用防止など各種啓発活動を展開してきた。だが、前述の名誉顧問の一言を受け、音楽祭という夢の実現に向けて動くことにした。当クラブで働きかけた結果、四日市市、中学校校長会等からの支援も取り付けることが出来、5月5日の「子どもの日」に開催する運びとなったのだ。

演奏会当日は700人余りが来場。その聴衆を前に、テレビ「題名のない音楽会」にも出演した作曲家・青島広志氏が司会を務めた。橋北中学校音楽部とプロのナゴヤシティブラスアンサンブルの共演で「花は咲く」を皮切りに演奏が始まり、四日市港・内部・中部中学校吹奏楽部の各演奏も加わり華やかなムードで音楽会は進んでいった。

青島氏が指揮を務めた中学生選抜とナゴヤシティブラスアンサンブルとの共演や、ゲストでテノール歌手・小野勉氏が登場するなど、クラシックやポップスと多彩な演奏が繰り広げられ盛大な音楽会となった。

コンサート終了後、演奏者や聴衆から「今日は楽しかった」「聴きに来てよかった」などの声が上がり、メンバーも大きな達成感を味わうことが出来た。

今回、豊田名誉顧問の一言で多くの人が動き、満足のいく結果を得られた。今後も当クラブでは青少年の健全育成に取り組んでいきたいと考えている。

（前会長／里中秀郎）

336-A地区

高知黒潮ライオンズクラブ

骨髄バンクへの支援 骨髄提供ドナー助成基金の創設

1991年12月、血縁者にドナーが見付からない患者さんに非血縁者間での移植を実現させるため、日本骨髄バンクが設立された。高知県では、県民への骨髄移植の啓発を目的に92年4月、県内全ライオンズクラブの寄付で運営される高知県骨髄バンク推進協議会が設立され、毎年、県民対象の講演会やドナー登録会開催などが行われている。

骨髄提供には平均4泊5日の入院に加え、面談、健診、自己血採取などのために計10日前後の欠勤を要する。だが、骨髄バンクでは休業補償や入院中のお子さんの保育料も支給出来ない。

そこで高知黒潮ライオンズクラブ（坂東伸政会長）は2008年から支援活動を開始。ドナーが提供しやすい社会的環境整備としてメンバーの22事業所で「ドナー休暇制度」も導入した。

自治体によるドナー助成制度は新潟県加茂市で11年に始まり、現在では22都道府県104自治体に拡大している。助成額は1日2万円、7日間を限度とするところが多い。

しかし、高知県では制定されていないため、骨髄バンクに相談し、本年6月11日付けで民間では全国初の「高知黒潮LC骨髄・末梢血幹細胞提供ドナー助成基金」を創設した。今後はドナーの申請に基づき一律7万円を助成。助成資金は60人のクラブ員で賄うことにしている。

個人的損失を少しでも補うためクラブの力量に合った最大限の支援を行い、ドナー登録される方を確保し、一人でも多くの患者さんに移植の機会を得てほしい。そう願っている。

（前会長／依光聖一）

3分間 ライオンズ アクティビティ編

青少年奉仕
レオクラブ①

奉仕のリーダーを育てるレオクラブ・プログラム

レオクラブは、青少年育成を目的としたライオンズのアクティビティの一つです。クラブがスポンサーとなってレオクラブを結成します。

レオクラブの誕生は1957年。アメリカ・ペンシルベニア州にあるアビントン高校野球チームでコーチをしていたジム・グレーバー監督は、同州グレンサイドライオンズクラブの熱心な会員でもあり、同じクラブ・メンバーのウィリアム・アーンストの協力を得て、アビントン・ハイスクール レオクラブを結成しました。

この世界最初のレオクラブは、Leadership（指導力）、Equality（対等）、Opportunity（機会）の頭文字を取って、LEO（レオ）という略称を作りました（Equalityは後にExperience〈経験〉に変更）。そして、レオクラブのクラブカラーとして、高校のスクールカラーでもあった栗色と金色が選ばれたのです。

最初のレオクラブ結成から10年後の67年、国際理事会は、世界で複数誕生していた青少年組織を一括し、公式プログラムとしてレオクラブ・プログラムを承認しました。

日本ではその翌年の68年に、第1号となる高知レオクラブが結成されます。

2002年8月に開催された初の国際レオ・フォーラム

翌69年には日本各地に八つのレオクラブが誕生。それぞれに地域の清掃、老人ホーム慰問、街頭募金活動、施設の子どもたちとの交流、ライオンズとの交歓会など、地域に溶け込んだ活動を展開していきました。

78年3月には日本のレオクラブ結成10周年を記念して、高知市で全日本レオ・フォーラムが開催され、全国180にまで増えたレオクラブの代表とその指導に当たるライオン、総勢500人が集いました。このフォーラムを記念し、毎年3月の第3日曜日が「日本レオ・デー」となりました。翌年、大分県別府市で開催された第2回全日本レオ・フォーラムには1200人ものレオたちが集まり、3日間にわたってディスカッションやイベントを行いました。

日本のレオクラブ結成20周年に当たる88年、335複合地区の主催で、初の全国レオクラブ会長連絡会が開催されました。日本では82年をピークにレオはクラブ、メンバーとも減少傾向にあったので、沈滞気味なクラブの活性化、更なる発展のために何をすれば良いか、といった議論も展開されました。

02年に大阪で、日本で3回目となるライオンズクラブ国際大会が開かれると、これに合わせて初めての国際レオ・フォーラムが開催され、15カ国から約350人のレオが参加し、親睦を深めました。「Got The Worldwide Vision～世界へ目を向け幅広い視野を持とう」をテーマに、それぞれの国での活動を発表し合うと共に、今後の連携についても話し合う機会になりました。

現在、世界には140カ国、約5700のレオクラブに16万人以上のレオがおり、ライオンズクラブの支援の下、誇りを持って地域社会への奉仕に勤しんでいます。

ナイジェリアのがん患者を支援するライオンズ

ナイジェリア最大の都市ラゴスにあるラゴス大学附属病院（LUHT）放射線治療科の勤務医ステラ・アグボガンはある日の朝、病院の廊下で一組の親子に出会った。泣き続ける母親とそれをなだめる青年。聞けば、母親のがん治療のため650キロ離れたクロスリバー州からやってきたと言う。しかし、ラゴスに知り合いはなく、金銭的に余裕のない親子は、治療中の滞在先が見つからず途方に暮れていたのだ。

アグボガンはすぐにこの家族のために何かしなくてはならないと思った。と同時に、遠方からLUHTの放射線治療科を訪ねてくる多くの家族が、治療中の滞在先に困窮しているという現実に直面した。

「ラゴスに親類縁者がなく経済的に余裕のない彼らに宿泊先の当てはありません。とても気の毒なことです。この出来事のすぐ後に、私はがん患者が治療中、安心して滞在出来る環境を作りだそうと心に決めました」

と、アグボガンは話す。

404-B地区ガバナーも務めるアグボガンは、奉仕活動を通じ地域の社会的弱者の生活向上に努めてきた。そして今回、がん患者が治療中安心して過ごせる宿泊施設を病院内に建設する計画を立案し、LUHTとLCIFがこれに賛同した。

LUHTの経営陣とは、具体的な施設の内容や建設地を選定。一方ライオンズとはプロジェクトを遂行するためのプランを練り、ついに宿泊施設の建設が決定した。施設は経済的に苦しいがん患者とその家族最大20人の宿泊が可能だ。LCIFからは一般援助交付金7万5千ドルが交付され、これで建設資金も整った。

7月のある雨の朝、ライオンズ会員と地域の要人が出席し、放射線治療科のすぐ隣の建設予定地で着工式が行われた。式では放射線治療科部長のアキン・オジボガン教授がスピーチに立ち、「院内にこのような施設が出来ることを誇りに思う、夢のような施設が出来る」と喜びを語った。

また、アグボガンもこう続ける。

「病院側からは治療病棟に隣接する立地の良い敷地を施設のために提供してもらいました。アクセスの良いこの場所に滞在することで、患者さんは安心して治療に専念することが出来ることでしょう」

この宿泊施設は人生で最も辛い時期を過ごす人々の希望の場所となり、また地域社会で困窮する人々に奉仕するライオンズの活動が実を結んだ象徴的な建物となっている。

LCIFの一般援助交付金の申請方法については、LCIF公式ウェブサイトを参照して頂きたい。

（エリック・マルグレス）

がん患者に通院中の滞在先を提供する宿泊施設

LCIF FILE

LCIF Development Update

■LCIF創設50周年記念目標 前期実績

地区別目標額と献金額（円）　2015年6月30日現在

地区	3年間目標額	3年間献金額	達成率	1人当たり
330-A	78,610,732	67,504,270	85.9%	13,754
330-B	155,407,170	129,037,937	83.0%	26,733
330-C	28,515,146	26,835,213	94.1%	11,617
331-A	74,301,215	78,920,772	106.2%	32,774
331-B	24,988,116	38,155,972	152.7%	15,618
331-C	29,900,483	14,451,455	48.3%	8,015
332-A	25,714,137	23,849,543	92.7%	13,482
332-B	26,621,140	25,131,472	94.4%	11,372
332-C	19,678,628	31,930,883	162.3%	20,734
332-D	36,951,532	49,322,444	133.5%	25,346
332-E	13,525,171	15,855,644	117.2%	8,814
332-F	9,148,074	10,415,824	113.9%	8,018
333-A	45,735,000	41,261,491	90.2%	14,653
333-B	33,824,952	28,851,308	85.3%	19,560
333-C	47,912,696	52,665,446	109.9%	15,095
333-D	41,663,400	39,743,379	95.4%	19,473
333-E	67,666,459	71,140,749	105.1%	25,453
334-A	343,652,981	336,142,319	97.8%	65,296
334-B	82,442,179	78,255,218	94.9%	20,913
334-C	62,778,240	73,800,955	117.6%	23,745
334-D	56,337,691	75,137,981	133.4%	19,593
334-E	52,984,008	66,757,340	126.0%	33,648
335-A	27,011,634	32,012,241	118.5%	13,912
335-B	267,297,822	155,505,770	58.2%	28,248
335-C	139,334,483	87,143,319	62.5%	22,460
335-D	26,881,392	34,040,630	126.6%	17,665
336-A	105,422,415	76,294,585	72.4%	13,968
336-B	54,205,075	31,381,930	57.9%	10,172
336-C	82,736,682	64,891,234	78.4%	19,125
336-D	44,545,115	39,121,525	87.8%	12,420
337-A	158,338,840	104,681,331	66.1%	23,759
337-B	47,676,318	42,967,802	90.1%	18,821
337-C	69,087,180	52,487,587	76.0%	17,181
337-D	49,155,427	34,742,725	70.7%	14,790
337-E	22,580,621	21,728,194	96.2%	13,937
全国	2,460,507,153	2,152,166,488	87.5%	21,090

LCIF Development Update

LCIF創設50周年記念目標前期報告

皆さんご存じのように、ライオンズクラブ国際協会は2017年に創立100周年を迎えます。そして翌年の2018年はライオンズクラブ国際財団（LCIF）が誕生して50周年となります。

そこで財団では「LCIF創設50周年記念目標」を設定し、2012年から、50周年を迎える18年までの6年間の献金目標スケジュールを発表。その達成に向け、活動をスタートさせました。これに対し日本では、この6年間を3年ずつ2期に分け、献金活動を展開することになりました。

この献金目標について、少しおさらいをしてみましょう。まず、LCIFは09～12年の3年間の平均献金額3260万ドルをベースに、最初の12・13年度は4・2%増、2年目の13・14年度は1年目の5・0%増、更に14・15年度は2年目の7・5%増という目標を設定しました。これを達成すると、当初3年間の献金総額は1億7700万ドルとなり、ベースとなる09～12年の3年間の献金額に対し10・2%の増加になるというものでした。

日本も同様に09～12年の3年間の平均献金額7億8100万円をベースに目標額を設定しました。ただし、LCIF全体では10・2%増を目標にしているのに対し、日本は5%増にとどめました。当初、日本も財団と歩調を合わせることが検討されましたが、献金額のベースとなる09～12年には東日本大震災に対する多大な献金が包括されていることを考慮し、達成可能な数値として5%増を設定、前期3年間の目標額を24億6千万円としました。

前期3年間はこの2015年6月末をもって終了。その結果、前期の日本全体の献金総額は、左表の通り21億5216万6488円で、目標には3億円ほど及びませんでした。地区別では、331・A、331・B、332・C、332・D、332・E、332・F、333・C、333・E、334・C、334・D、334・E、335・A、335・Dの13地区が目標を達成されました。また達成率90%以上の地区が9地区あり、日本全体の平均達成率は87・5%でした。

この間、特に献金額を伸ばしたのは332・C地区で、目標額のベースとなった09～12年に比べ、実に70・8%増を記録。次いで331・B地区60・7%増、332・D地区40・5%増、334・D地区40・4%増など大幅な献金増を果たした地区もありました。

また、09～12年の献金額が多かったために設定目標が高くな

り、結果的に目標達成には至らなかったものの、会員1人当たり献金額では6万5296円と、日本の平均2万1090円の3倍を超える貢献をされた334・A地区など、非常に大きな貢献をしてくださった地区もあります。

このように積極的なご協力を頂けた各地区、各クラブの皆様には、誌面をお借りしまして改めてお礼申し上げる次第です。

後期献金目標

ところでLCIFの集計による、創設50周年記念目標に対する世界全体の実績は2015年5月末時点で1億2479万ドルと、当初3年間の目標額1億770万ドルを既に超え、残り1カ月の集計を残し目標達成率は約116％となっています。また、近隣諸国では台湾や韓国のがんばりが目を引き、台湾の献金額は昨年度（2015年5月末現在）約782万ドルで、日本ライオンズの同期間の献金約787万ドルに迫る勢いでした。ちなみに台湾の会員数は日本の3分の1ほどで、会員1人当たりに換算すると日本を大きく引き離し、世界第1位の座は日本から台湾に移っています。

そんな中、今年度から後期3年間の献金目標がスタートしました。世界全体では順調に献金が伸びていること、また台湾に大きく遅れを取り、韓国にも追い上げられていることなどを勘案し、世界との比較をする上で、後期の献金目標はドル・ベースで設定することになりました。

前期3年間の内訳をドル・ベースで見ると、1年目約738万ドル、2年目約761万ドル、3年目約787万ドル（2015年5月末現在）という結果でした。そこで後期は、6月末での最終年度の献金額を800万ドルと見積もり、その5％増を目標としました。即ち単年度では日本全体で840万ドル、後期3年間ではその3倍ですから2520万ドルという目標設定となり、この数値を前期3年間の実績を踏まえ、各地区に割り振らせて頂きました。それをまとめたものが左の表ですが、この目標を達成出来れば、後期3年間の献金総額は前期3年間の実績に対して9・6％増という形になります。

LCIF創設50周年記念目標は、視力、青少年、災害対応、人道支援という主要4分野はもちろん、世界中で多発している未曽有の自然災害への対応、毎日420人が死亡しているはしかの撲滅プロジェクト、3700万人が罹患しているオンコセルカ症撲滅などの案件に力を注ぐために実施するものです。

今年、日本から34年ぶりにライオンズクラブ国際協会のトップに就任した山田實紘国際会長は、国際協会100周年となる次年度には、50周年を控えたLCIFを理事長として牽引されます。国際協会、LCIF、そして日本ライオンズにとって歴史的な局面を迎えるこの機会に、LCIF創設50周年記念目標達成に向けご協力賜りますよう、切にお願い申し上げます。

（LCIF国際委員、エリア・コーディネーター／桜井孝一、澁田繁晴）

■LCIF創設50周年記念目標　後期

地区別前期（35カ月）献金実績と後期目標額（ドル）

地区	前期献金額	後期目標額	単年度目標額
330-A	805,930	888,486	296,162
330-B	1,497,047	1,650,398	550,133
330-C	297,135	327,572	109,191
331-A	819,762	903,735	301,245
331-B	389,729	429,651	143,217
331-C	167,087	184,203	61,401
332-A	258,497	284,976	94,992
332-B	268,393	295,886	98,629
332-C	341,084	376,023	125,341
332-D	515,072	567,834	189,278
332-E	170,216	187,652	62,551
332-F	111,707	123,150	41,050
333-A	423,613	467,006	155,669
333-B	311,822	343,764	114,588
333-C	547,905	604,030	201,343
333-D	410,014	452,014	150,671
333-E	806,877	889,530	296,510
334-A	3,486,758	3,843,927	1,281,309
334-B	848,191	935,076	311,692
334-C	730,451	805,275	268,425
334-D	779,216	859,036	286,345
334-E	667,137	735,476	245,159
335-A	303,997	335,137	111,712
335-B	1,554,485	1,713,720	571,240
335-C	868,783	957,777	319,259
335-D	352,314	388,404	129,468
336-A	749,318	826,075	275,358
336-B	315,582	347,909	115,970
336-C	683,530	753,548	251,183
336-D	400,982	442,057	147,352
337-A	1,056,129	1,164,314	388,105
337-B	481,138	530,424	176,808
337-C	534,330	589,064	196,355
337-D	343,621	378,820	126,273
337-E	226,336	249,521	83,174
全国	22,858,475	25,200,000	8,400,000

福岡国際大会への道 ❶

「OMOTENASHI」の心で

99th International Convention
2016 Fukuoka Japan
Do for People Do for World

世界が注目する都市・福岡

第99回ライオンズクラブ国際大会は、２０１６年6月24日から28日までの5日間、福岡市で開催されます。国際大会の日本開催は14年ぶり。東京・大阪に次いで、福岡が3都市目となります。

12年に福岡市で開催された、第51回ＯＳＥＡＬフォーラムに参加された皆さんはご存じのように、福岡市の都心近くには九州最大のコンベンション・ゾーンや会議施設があり、国際コンベンションの開催件数は、全国で2番目に多くなっています。福岡市及びその周辺の団体・企業の協力で創設された公益財団法人福岡観光コンベンションビューローは「Meeting Place Fukuoka」のキーワードを掲げコンベンション誘致を強化するなど、「世界ナンバー1のおもてなし都市・福岡」の実現を目指しており、福岡国際大会も全面的にバックアップして頂いています。

福岡といえば豊かな食文化の街でもあり、玄界灘で獲れた新鮮でおいしい魚や、博多ラーメンを屋台で食べるのも楽しみの一つ。海外メディアからの注目度も高く、06年7月に発行された『ニューズウィーク』では「世界で最もホットな都市（急成長を遂げている都市）ベスト10」にランクイン。また、イギリスのライフスタイル情報誌『モノクル』では「世界で最も住みよい都市25選」で昨年は10位、本年は12位（日本では東京に次ぐ順位）にランクインしています。

ホスト委員会総力を挙げて

福岡国際大会開催まであと1年を切り、ホスト委員会（337複合地区）でも着々と準備が進んでいます。本年6月16日、フランスから4人のライオンが福岡を訪問された折には、各会場やパレードコースなどをご案内し、不老安正ホスト委員長、藤井勝彦推進委員長との意見交換も行われました。不老ホスト委員長は6月28日、ハワイ・ホノルルにおける第98回国際大会で開催されたフランス・レセプションに招待され、福岡国際大会への参加を呼び掛けたところ、フランスから３００人参加の約束を頂きました。

me to Fukuoka! 99th LIONS CLUBS INTERNATIONAL CONVE

ホノルル国際大会会場に設けられたPRブース

このホノルル国際大会では、福岡国際大会のＰＲブースを設置し、世界各国のライオンへＰＲを行いました。6月29日にはハワイ太宰府天満宮の協力による黒田節や獅子舞などの演舞も披露されました。ＰＲブースの横に設置された福岡大会早期登録デスクでは、期間中に約２００人が登録を行ってくださいました。

日本にライオニズムが伝播して60年余。来年は日本の九州、福岡へ世界中から多くの会員が集い、共に祝い、親睦を深め、ライオニズムを学習します。九州各県、福岡市、地元のさまざまな民間企業が一体となり、おもてなし（ＯＭＯＴＥＮＡＳＨＩ）の心で皆様をお迎え出来るように、ホスト委員会総力を挙げて取り組んでまいります。日本全国のライオンの皆さんには、ぜひともご参加賜り、ライオンズクラブの国際大会を体感して頂ければ幸いでございます。

（第99回ライオンズクラブ国際大会ホスト委員会／ＰＲ委員会）

逢(あ)おう！ 感じよう！ つながろう！

特集：全日本ライオンズ若手フォーラム

2015年6月6日、東京都港区の東京都立産業貿易センター浜松町館で、全日本ライオンズ若手フォーラムが開催された。日本の全35地区から約370人が参加。東京の空は梅雨入り前の曇天だったが、会場は発光するような若手ライオンたちのエネルギーであふれた。

写真／関根則夫

フォーラムでは参加者が7〜8人ずつに分かれ、2回のグループ・ディスカッションが行われた。年齢やライオン歴、役職にとらわれず積極的に発言出来るよう、フォーラム中は互いにニックネームで呼び合い、他者の意見を否定しないというルールが設けられた。

第1セッションのテーマは「100周年事業に向けて」。国際協会の「100周年記念奉仕チャレンジ」では、「青少年の参加を促そう」「視力を分かち合おう」「食糧支援をしよう」「環境を保護しよう」という四つの奉仕分野でそれぞれ2500万人、計1億人を支援することを目標としている。各グループはここから一つの奉仕分野を選び、事業を計画していく。

テーマとして最も多くのグループに選ばれたのは「青少年」だったが、「環境」と組み合わせるなど、複数の分野にまたがる企画が多かった。このディスカッションでは50近い事業計画が提示され、そこから三つのキーワードが浮かんできた。

啓発：事業の必要性の学習から

一つ目のキーワードは「啓発」。これに当てはまる事業としてダント

ツに多かったのが、青少年分野の薬物乱用防止教育。麻薬・覚せい剤だけではなく、危険ドラッグも子どもたちのすぐそばに潜む近年の状況から、次のような提案があった。

●薬物乱用防止教室の開催
●地域の祭りなどでPR
●親を交えての勉強会
●子どもの他、警察官や教師が参加しての寸劇
●大学生に講師になってもらい、小学生らに指導する

また、啓発的事業のその他の例は、事業の必要性や現状から学ぼうというもの。

●ごみの分別、リサイクルの推進のための各家庭へのPR活動
●清掃センター、リサイクル・センターの見学
●不法投棄やポイ捨て問題
●気候変動の現状、生態系保護の必要性
●森の再生と動物との共生を考える
●発展途上国の飢餓問題などを知り、命の尊厳を考える
●障害のある方から話を聞く

あるグループの計画に「ハザードマップを作る」というものがあった。高齢者や子どもたちにとって危険だと思われる場所について、地域住民からアンケートを取って分類し、ハザードマップを作る。専門家のアドバイスの下で危険箇所の順位付け、必要設備の割り出し、防災訓練、パトロールなどを地域と共に行う。これを全国に広めていこうというものだ。ここ数年、これまでの常識を超えた自然災害が頻繁に発生している。危険箇所についての認識を地域で共有しておくのは重要なことだろう。

経験：自分のために、人のために

2番目のキーワードは「経験」。青少年を対象にさまざまな経験の機会を提供しようというものが多かった。例えば「子ども国会開催」という事業案は、各省庁にも協力を仰ぎながら、県単位で国会議員を集め、子どもたち自身が実行委員会を作り運営する、というもの。他にも、

●レオクラブの結成、及び親クラブとの合同アクティビティ実施
●環境美化、空き缶拾い、ゴミ拾い
●小学校や河岸への桜の植樹
●ハイキング、歴史探訪
●スポーツ大会、ライオンズカップの開催

などが上げられた。これらは直接自分の経験値を高めるものだが、他者を支援する経験を通じて自分の価値（出来ること）を知ることが出来、子どもだけなく地域全体を巻き込むタイプの活動も幾つか提示された。

●視覚障害者への支援：点字本の提供、朗読、音声案内、盲導犬育成、中古眼鏡の提供、アイバンク登録、献眼など
●国内外の貧困者への支援：フードバンク、フードドライブ、金銭や物資の提供など
●学生への奨学金提供
●貧困家庭の子どもをYCE生として派遣
●施設で暮らす子どもたちへの職業支援

つながる：助け合うこと

そして三つ目は「つながる」。

例えば、「3世代交流による究極の食育」という事業計画があった。小学校の校外学習として、親子で年配の農業従事者に指導を仰ぎ、3世代で農作業、草刈りや田植えを定期的に実施。収穫後、自ら育てたタマネギ、ニンジン、米、ジャガイモで、カレーを作って食べ、大地の恵みに感謝する。これをゾーン、リジョンを超えた合同事業にするというもの。

3世代の「つながり」、地域の「つながり」、そしてクラブの枠を超えたライオンズの「つながり」である。

また目に見える「つながる」事業として「全国国道1号線ごみ拾い」という企画もあった。ボーイ（ガール）スカウト、市民、子ども会、PTA、行政、他組織などと一緒に、

ウィンクン・タム元国際会長基調講演

私が国際会長、LCIF理事長の任期を終えた後、何人かに「次に何をするんですか?」と聞かれました。私は「自分のクラブの一メンバーとなり、元ガバナーとして活動していく」と答えました。国際会長の任期を終えることは、ライオンズ・ライフの終わりではなく、新たな始まりだと考えたのです。34年間、私にすばらしい機会を与えてくれたライオンズクラブを最高の組織にするのが自分の役割だと感じました。

ライオンズクラブで重要なことは単に奉仕するだけでなく、家族になることです。そうすれば我々は世界210の国と750以上の地区に家族がいることになります。今日、この若手フォーラムでも、共に奉仕を行う仲間と出会えるはずでしょう。

私は1981年、31歳の時に新クラブ結成と共に入会しました。ほとんどのメンバーは高齢で、私の次に若いメンバーは60歳でした。香港で最初の大きな事業は500人以上の高齢者を招いての食料援助でした。最年少の私にはギフトを買ってラッピングしたり、他のメンバーがギフトを渡すのを手伝ったりと、面倒な仕事が多く割り振られました。当日、ギフトを受け取った方が手を握り、感謝してくださいました。目に涙を浮かべる方もいらっしゃいました。私はその時、なぜ彼らがそんなに喜んでいるのか理解出来ませんでした。ギフトは非常にささやかなものだったからです。それでも、喜ぶ彼らを見て、私もうれしかったことを覚えています。

この事業の後、先輩が「彼らが喜んだのは、何かをもらったからではない。奉仕の愛に対して喜んだんだ。しかも、それをあなたのような若いメンバーにしてもらったのがとてもうれしかったのだ」と教えてくれました。それを聞いた私も幸せな気持ちになりました。

何かを成し遂げた時は、達成感を覚えますよね。麻雀であがれた時なんかもそうです。麻雀の場合、同じ卓の仲間はあなたがあがれば幸せじゃないでしょう。しかし、奉仕の場合は違います。あなたが幸せな気持ちになると同時に、奉仕の受け手も幸せになる。みんなが幸せになれるのです。だからこそ、私はライオンズの一員となり、奉仕をしているのです。

2年後、ライオンズは100周年を迎えます。これは過去100年を振り返るだけのものではありません。過去を見つめ直し、この先、ライオンズが世界に対して何が出来るかを考える必要があります。いつか、地域の人々がすばらしいライオンズの奉仕について語り合い、そしてあなたたちが「それに関わっていた」と言える日がくることを願っています。

全国の国道1号線を清掃してつなげていこうというもの。進捗状況をSNSにアップしたり写真展を開催したりと、更なる広がりも提案された。

この「つながる」というキーワードは、ライオンズのアクティビティがそもそも、地域や支援を必要としている人たちとつながることで実現するのだから、全ての事業に当てはまると言えるかもしれない。その代表例として次のような提案もあった。

●薬物乱用防止やいじめ防止の事業において、大学生に小学生らを指導させ交流させる
●PTAとライオンズがつながり、生徒のための相談窓口を作る
●障害者スポーツ競技などのアクティビティに健常者の子どもも参加、一緒にスポーツをしたり、話を聞いたりする
●子どもに独居老人宅の電球交換、買い物代行、除雪、ごみ拾い、草むしりなどに参加してもらい、子どもと高齢者の交流を図る

人は皆、少しずつ誰かのために使える力を持っていて、同時に少しずつ助けを必要としている。ライオンズは地域での助け合いをコーディネートし、あるいは地域でつながった人たちの力を集めて、地球の裏側の人たちを支援することが出来る。そ

れらが結集することで、自然と1億人への奉仕につながっていくはずだ。

開かれたライオンズになる

第2セッションのテーマは「次世代リーダーの育成」。第1セッションから座席をシャッフルし、新たなメンバーとの顔合わせで実施。次世代を担うリーダーを育てていくにはどうすればよいか、現在どのような問題点があり、どのように解決していけばよいかを話し合った。

ディスカッションではまず、大前提となる、若い新会員を獲得するためにはどうしたら良いかという点が挙げられた。

- ノン・ライオンも参加しやすい異業種交流会の開催
- ライオンズという枠にとらわれるのではなく、地域のリーダーを育てる、人を育てる団体となる

確かに、仕事で成功を収めているさまざまな業種の人と交流し、共に地域を盛り上げていこうと呼び掛ければ、参加したい人はきっといるだろう。

次に、新会員を得たら、初期段階で気を付けることとして、次の意見が出された。

- 例会やアクティビティで新会員がリラックス出来る雰囲気を作る
- 歓迎会、飲みニュケーション
- 出席しやすい環境を整える（仕事への理解、時間的な融通を効かせる、会費減額など金銭的負担を減らす、ドレスコードの緩和など）

その一方、新会員にライオンズへの理解を深めてもらうための手段も話題に上った。

- 育成マニュアルの作成、メンター・プログラム（ベテラン会員がマンツーマンで新会員を指導する）の活用
- クラブ役員、委員会などの役職に就かせチャンスを与える

また、「早い時期に役職を」という意見と併せて出されたのが、

- 役を与えた後のサポートをしっかりする
- 役員任せにせず、仕事を皆でシェアする
- 若いリーダーの夢を皆で支えてかなえさせよう

などの提案。また中には、役は練習のつもりで、失敗したら全員で責めを負おう、という肩の力を抜かせるようなものもあった。

ライオンズの知識を深め、世界を広げる

ライオンズクラブに魅力があってこそ、新会員は定着する。その魅力について、フォーラムでは次のように語られた。

- 仕事のしがらみのない仲間、世代を超えた仲間を持てる
- 尊敬出来る人生の先輩から、奉仕やクラブ運営を通じて、人生勉強が出来る
- 自分の特技を発揮して社会に役立てる
- 人の喜ぶ顔を見られる

そして、これらの魅力を高める上で、所属クラブの中だけでなく、広く外へ目を向けることも必要との意見が多く見られた。

- ゾーンやリジョン、地区を超えたゲストを例会に招く
- 他クラブへ例会訪問する
- 地区、複合地区、国際大会などの年次大会へ参加する
- さまざまなフォーラムやワークショップなどの開催と参加
- 他のNPOなどとの交流

参加者からは「これまであまりク

ラブの外に出たことはなかったが、こんなに若くて面白い人たちがたくさん居るなんて」と、ライオンズに対する認識を新たにしたという声も聞かれた。そんな声を受け、フォーラム後もフェイスブックでつながろうとの提案がされた。SNSでは他地区や他国の会員と交流したり、情報を得たりすることも出来るだろう。

この他、「目標を持とう」という提案もあった。

●入会→クラブ会長→地区役員→地区ガバナー→国際理事→国際会長

●地区役員を経験してからクラブ会長になると良い

後者は、自分の仕事を一回り広い視点から見てみなさい、という経験談だろう。

「次世代リーダーの育成」についての話し合いで挙げられた意見を見返してみると、実は年齢やライオン歴にかかわらず、全てのメンバーにとってプラスになるものではないだろうか。誰もが次のリーダーになるための自己研鑽（さん）と、他者へのサポートをすべきだと。

100周年、そしてその先を見据えて

フォーラムでは年齢やライオン歴、地区を超え、大勢の会員が本音で話し合い、切磋琢磨した。刺激を受け、視野が広がる機会になっただろう。

しかし、このフォーラムが最終地点ではない。今回の目的は、それぞれがここで得た情報やアイデア、課題をクラブに持ち帰り、生かしていくことにある。フォーラムは行動と変化を促すための起爆剤であり、ここがスタートなのだ。

今回、最も多くの会員が参加した333-C地区（千葉県）の波木奏美前地区ガバナー（開催当日は現職）は、本人も参加したこのフォーラムについて次のように講評する。

「全国各地から集った若い世代のライオンたちは、旧知の人たちはもとより、初めての人たちも臆することなく自己のPRに努めていた。他人と違う考えの自分の発見、自分の考え方を誰かに聞いてもらいたい、そんな強いビームをそこここで感じた。自分の周りに信頼出来る若者を、友人をいかに多く持てるかということが、彼らをこうしたフォーラムに参加させている大きな要因ではないだろうか。

フォーラムにも参加していたが、今年度の当地区ガバナーは日本のガバナーの中で最も若い。彼のように研鑽を積み、誠実に理知的に、そしてにこやかにリーダーになることは、若いメンバーの目標となるだろう。これは現実味がある。自分の努力でかなえられるかもしれない。若いライオンたちも、大勢の人たちの中でもまれながら、自身のリーダーシップを磨いていけるはずだ。無邪気で素直な彼らが、近未来のライオンズクラブにますますの隆盛をもたらしてくれると実感した」

参加者感想

330複合地区／埼玉県・坂戸 森川明治郎

ライオン誌主催の若手フォーラムには、おかげさまで3回目の参加になります。今回は「逢(あ)おう！ 感じよう！ つながろう！」をテーマに全国から400人近いメンバーが集まり、熱気あふれる会場の雰囲気が大変に印象的でした。こうして地区や地域の垣根を越えて集う機会を設けて頂けることに、心より感謝申し上げます。私自身、このフォーラムをきっかけに親交を深めているライオンもたくさんいますし、人生の糧になっております。

当日は日頃なかなか話すことのないテーマに集中して活発に意見交換しながら、余談の会話も楽しみ、あっという間の2セッションでした。

情報氾濫の現代社会においてソーシャル・ネットワークの活用は必須条件であると思いますが、単なるアイテムですので、それで全てがうまくいくわけでもないようです。こうした時代だからこそ原点を見つめ直し、心のつながりや思いやりを大切にしながら、組織の拡大を図るべきでしょう。クラブでの日々のささやかな奉仕活動がライオニズムの理解と推進の原点であり、その輪を広げていくためには、メンバーの結束と開かれた組織への変革という一見相反する真理を有することが大切なのではないでしょうか。

今後は地域から組織全体に活力を与えられるフォーラムが求められている気がします。参加機会の均等化や内容の新鮮さという観点から、ローテーションによる開催地や企画運営者の選定が必要かと思います。

（14年度クラブ会長／50歳／入会7年11カ月）

331複合地区／北海道・網走 寺中賢武

フォーラムには同じクラブ所属のライオン加藤典幸と二人で参加しました。二人とも初参加ということで、どのような方々が集まっているか期待と不安を胸に会場へ向かいました。入場すると不思議な光景が目に入りました。若手の集まりと思っていたのですが、自分より年上でライオンズ経験の豊富な先輩たちが多く見受けられました。あらかじめ決められた席へ着きフォーラムが始まると、運営されている方々の多くが地区ガバナー経験者なのに驚きました。ガバナーを終えてからも、こうして若手育成に更なるご尽力をされていること

とに感銘を受けました。加えて、ウィンクン・タム元国際会長の講演も聞くことが出来、前段にして大変感激しました。

グループ・ディスカッションでは、全国各地から集った若手からベテランまで幅広い層の中での話し合いで、年齢や地域によって異なる多様な意見を聞くことが出来ました。アクティビティに関するセッションでは、都会と田舎では環境が違うので発想も違ってきます。都会ならではの話も聞け、新たな観点でとても参考になりました。次世代リーダー育成のセッションでは、グループに経験豊富な方々もおられ賛否両論が出ました。次世代のメンバーに引き継ぐにも、現状は経験を踏まえてなくてはならないシステムであり、年功序列では若手が指導者として活躍出来るまでに時間がかかってしまいます。このフォーラムでも、若い世代だけで行えば新たな挑戦が期待出来ますが、これまでの活動を踏まえた意見も多く、まだまだ過去の踏襲は避けられない状況にあると感じました。しかしながら、地域や年齢を超えたコミュニケーションが出来、大変充実した時間でした。（14年度331・B地区青年アカデミー委員長／49歳／入会7年11カ月）

332複合地区／青森県・弘前東奥
奈良安佐子

全日本ライオンズ若手フォーラムに参加させて頂いたことに感謝申し上げます。入会して間もなく分からないことだらけで、当日の朝まで緊張していましたが、いざ、会場に入るとそんな心配は一切不要で、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

グループ・ディスカッションでは他地域の奉仕事業の話が非常に興味深く、また参考になりました。奉仕活動に限らず今回のフォーラムのように真剣に地域のことを考え、互いの意見を言い合える人材が各地域にもっと増えれば、世界がどんなに幸せになるだろうと感じました。

我が社のコンセプトの中にも「世界の人を幸せに！」があります。私は、美容と健康、心を元気にする手助けの仕事をしていますが、そんな日々の事業活動の中で社員全員の気持ちが一つになり、たどり着いたのが「世界の人を幸せに！」というコンセプトでした。地域（青森県弘前市）からどうすればこのコンセプトを実現出来るか考えていた矢先に入会のお誘いを頂き、世界規模での奉仕活動が出来る、そして会社の夢も実現出来ると思い、即答で入会を決めました。若手フォーラムに参加して一人ひとりの意識や行動が世界の人を幸せに出来ると確信し、より一層、社会奉仕にがんばっていこうと思いました。（45歳／入会4カ月）

333複合地区／栃木うづま
天谷一美

333・B地区でも青年アカデミー委員会が始まったこともあり、このフォーラムに参加させて頂きました。初めに行った、自分を動物に例える自己紹介は、1分間という短い時間でしたが自己開示が出来たようで、自然にグループワークに入っていく手助けとなりました。

ディスカッションの一つ目のテーマは「100周年事業に向けて」で、私たちは青少年育成を選びました。いつの時代でも次代を担う青少年の育成は大切であり、私たちがこの活動に関わり合えることを喜ばしく思います。これからはもっと、青少年と一緒に活動するライオンズでありたいと感じました。

二つ目のテーマは「次世代リーダーの育成」です。私たち若手がリーダーとして成長するためには何をすべきか。ライオンズ・パーソンとして責任感を持って活動し、焦らずに先輩方の行動を参考にしながら、若手としてのアイデアや意見を述べさせてもらう。そうして、成熟したライオンズ・パーソンとなり、いつまでも若手の気持ちを忘れないリーダーになりたいと思いました。

このフォーラムを通じて、それぞれが持つライオンズへの思いや、若手であるがために自分のやりたいことが出来ないなど、さまざまな意見、悩みを聞きました。活発なディスカッションはとても刺激になり、ライオンズでの活動に更に力を入れていきたいと感じました。

終了後の懇親会でも、ウィンクン・タム元国際会長を始め多くの先輩方とフレンドリーに会話が出来、皆が同じライオンズ精神でつながっているという充実感がありました。これからもライオンズをもっともっと楽しみながら活動し、次へ次へとつなげていきたいと思います。（51歳／入会7年2カ月）

334複合地区／石川県・金沢東
堀岡昭夫

全日本ライオンズ若手フォーラムには、同じゾーンから4人で参加させて頂きました。334・D地区には青年アカデミーという組織はありませ

ん。このフォーラム開催の情報を知り、青年アカデミーの活動について当クラブの例会でお話し頂けるゲスト・スピーカーを探しました。そして、中村泰久元330‐C地区ガバナーに遠路金沢までお越し頂けることになりました。その例会を前に、GLTに協力してフォーラムの運営に当たられているライオン中村に初めてお会いしました。腰が低いながら統率力のある方だと直感しました。

フォーラムでは終了まで名刺交換をしないとのルールの意味や、370人で行うワークショップの統率の取れた管理体制など、大変勉強になりました。終了後の懇親会では、多くの方と名刺交換をさせて頂きました。現・元・次期地区ガバナーがいらっしゃり、今までのライオンズクラブでの経験ではあり得なかったフレンドリーな時間を過ごしました。

週が明けて6月9日、ライオン中村に金沢東ライオンズクラブの例会にお越し頂き、若手の成長を目的とする青年アカデミー委員会発足の経過、存在意義、未来をお話し頂きました。

今回のフォーラム参加とライオン中村との出会いで私が気付いたことは、クラブ会長、ゾーン・チェアパーソン、地区ガバナーはライオンズ人生の通過点でしかないということです。ガバナンスというのは君臨するのではなく、優れたプロデューサーであるべきこと。そしてGLTの活動はライオンズクラブに限ったものではなく、地域や企業、広く言えば国家、世界のリーダーを育成することだと感じました。（14年度クラブ幹事／58歳／入会9年8カ月）

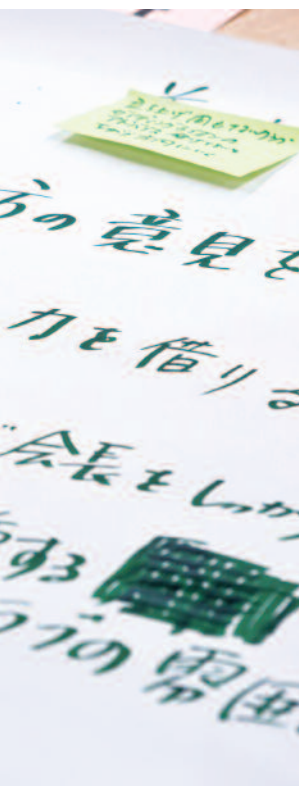
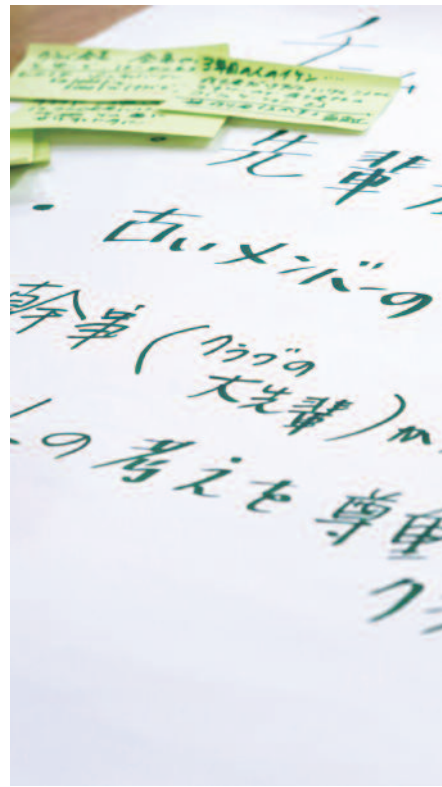
335複合地区／京都御室 千綾剛志

若手ライオンとして自クラブの活動に参加しているだけだと、ライオンズクラブ国際協会という組織を意識することはほとんど無いかと思います。私自身、幹事をさせて頂くまでは同じゾーンのブラザー・クラブの方々とさえもほとんど関わりは無く、姉妹クラブの方と年に1～2回交流するぐらいでした。そのような状態では自クラブの問題を認識出来ないばかりか、改善の意思さえも生まれないため、嫌なことがあっても一人悶々とする日々だったと思います。幹事になってからは、諮問委員会や他クラブの周年行事に参加させて頂きながら、少しずつ他クラブとの交流が増えましたが、それでも地区や国際協会を意識することはそれほど無く、仲の良い数人の方々と話をする程度の広がりでした。

今回、同じ若手と呼ばれる人たちと出会い、互いに意見交換をすることによって、他クラブと比較した自クラブの強みや弱みを考えるきっかけを頂きました。そして自分のクラブの問題点を洗い出し、その改善策を他クラブの運営から学ぶことも出来ました。またクラブの問題点だけではなく、地区ガバナー等の立場の方々やベテランの方々からクラブの在り方を教えてもらう中で、自分自身の問題点やライオンズクラブに対する自分の在り方を学びました。

その上に、ウィンクン・タム元国際会長のお話を伺い、直接質問まですることが出来、それに真剣に答えてくださる元国際会長の姿にこれから目指すべき道を示して頂きました。更に、懇親会や二次会まで参加して私たち若手と気さくに話してくださるタム元国際会長の人柄に接し、感激しました。ライオンズクラブは全世界に広がっているけれども、国境や役職、立場に壁は無くひとつなぎになっているんだと、途方もなく広いその世界が絆によって近く密接に一つにつながっていることを感じました。（14年度クラブ幹事／37歳／入会1年3カ月）

336複合地区／島根県・平田 道前利行

若手フォーラムは二度目の参加です。参加動機はライオンズクラブの入会動機でもある「縁を見つける」ためです。入会動機は残念ながら奉仕ではありません。若手の入会動機の多くが奉仕ではなく「出会い」だそうです。現在の日本ライオンズには、複合地区を越えた交流がほとんどありません。同一地区内においても、地区役員になって初めてゾーンを越えた交流が可能です。複合地区を越えたつながりを作ることは、特殊な例を除き、今の仕組みでは不可能だと思います。その壁を打ち破ろうと、2年前にこのフォーラムに参加しました。残念ですが、前回も今

回も336・D地区（島根・山口）からの参加者は私一人です。しかしながらフォーラムのお陰で、今では地区外に100人以上の友人が出来、ライオンズライフを楽しんでいます。

若手フォーラムに参加し、他地区の人たちと話をするうちにライオンズクラブの構造的問題が見えてきました。それは地区ごとで若手に対する対応が違うことです。最も驚いたことは、他地区ではこのフォーラムに参加した若手が、ガバナーや地区役員、クラブ会長を務めていることでした。開かれた地区では会長経験を問われず地区役員になっている若手がたくさんいます。中には入会5年程度でキャビネット幹事を任された人もいました。地方では古き因習が残り、会長経験が無いとまず地区役員にはなれません。地区役員は元々副地区ガバナーの専権事項であるにもかかわらず、ゾーン内でのローテーションが優先されます。クラブ会長も年功序列制で順番待ちが重要です。そのため、志のある若手が活動の場に出られずに悩んでいます。

私の住む出雲には、同世代のライオンズ会員がほとんどいません。入会しない理由をノン・ライオンに尋ねたところ、①活動内容に魅力が無い②多くの時間やお金がかかりそう③大御所との付き合いに気を使う、等が多数意見でした。この中には、父親が元メンバーという方が何人かいます。今、SNSの発達により奉仕参加へのハードルがかなり下がっています。奉仕がしたいなら、いつでもどこでも奉仕活動に参加は可能です。彼らに出雲市内3クラブが主体となり、島根県が日本で唯一の民間の主導で「ドクターヘリ」の誘致に成功した話をしたところ、誰一人その事実を知らず「そんな良いこともしてるんだ！」と驚いていました。ライオンズの持つ組織力と行動力をフルに生かせば、ライオンズにしか出来ない奉仕が見つかるのではないかと思っています。

若手メンバーが中心となり、4年に1度、日本全国のライオンメンバーが集う「全日本大会」を夢見る私です。（47歳／入会11年5カ月）

337複合地区／沖縄県・八重山
岡部厚志

私は今回南島の地、石垣島から参加させて頂きました。まず、このようなフォーラムを開催して頂いた役員・関係者の方々に深くお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。今回参加したライオンは、年齢・性別・地域・ライオン歴・役職にかかわらず集った方々でした。元国際会長から2、3カ月前に入会したライオンまで多様な参加者たちが、アクティビティと指導力育成について話し合う本当にすばらしい時間でした。

我が337・D地区には、今回のフォーラム開催に尽力された「青年アカデミー」なる地区組織がありません。各リジョン内では、新人ライオン教育をする場と時間を設けておりますが、今までの慣習を学ぶものでしかないのです。ぜひとも、当地区にも「青年アカデミー委員会」を作って頂きたいと思います。

私は常々思います。「夢は、語らなければ実現せず」と。秘める夢もあるかもしれません、しかし、夢を実現するには具体性が大切です。いろいろな人からアドバイスを吸収する。黙っていては吸収なんて出来ません。語り、議論し、考え、一歩一歩進む。それが夢を実現するものだと思っています。私にとって、ライオンズ・ライフをどう生きるか?は、まさしく「夢」と変わらないのです。

若手フォーラムで学んだことを、これからクラブでどのように生かすか？　これが今の私の課題となっています。学んだことを実践に取り入れることは、私にとって難しい課題です。しかし、私には若手フォーラムに参加した多くのライオンのつながりがありますし、今まで培ったクラブ会員とのつながりもあります。きっとさまざまなアイデア、方法を考えつくと思います。

次回の「若手フォーラム」には、ちょっとだけ自信を付けたライオンとなって参加出来るよう、ライオンズ・ライフを楽しみたいと思います。（14年度クラブ会長／46歳／入会7年4カ月）

国際理事だより

■国際理事
安井克之
（北海道・旭川東）

国際理事候補者から国際理事へ

アメリカ・ハワイ州ホノルルで6月28日から第98回国際大会が開催されました。24日夜半に新千歳空港を離陸した時、私はまだ国際理事候補者でした。

25日、選挙管理資格証明委員会開催。26日はプレストン国際会長主催による候補者のための昼食会が開かれました。正装し、そうそうたるメンバーの中に初めて立つ緊張の中、候補者としての自己紹介とスピーチを英語で行いました。14時からの国際ノミネート委員会には当地区の杉本忠夫元国際理事と出席し、2分間程度の自己紹介。これは候補者資格を再検討する会議で、候補者全員の参加が義務付けられています。

27日はインターナショナル・パレード。空も海も真っ青、雲も少なく、燃えるような暑さ。参加国は約200。そろいの法被を着た日本人参加者は史上初の2800人！　武者震いするほどの緊張の中、JAPANの横断幕を先頭にスタート。和太鼓、山田實紘国際第1副会長ご夫妻、清水英徳、西川義規両国際理事と続き、その後に「佐藤・安井両国際理事候補者」の横断幕が入り、両手を振って沿道の声援に応えました。パレード終了後には同期ガバナー会・シアトル会のメンバーご夫妻34人が激励の昼食会を用意してくださり、誠に頼もしい励ましを頂きました。午後は選挙委員会会議。夕刻には山田第1副会長の部屋に、次期八複合地区ガバナー協議会議長予定者と共に召集を受け、会長の基本理念である命の尊厳と和、戦争、自然災害、難民、飢餓対策、視力ファースト、アイバンク、麻薬の撲滅、人間性の大切さ、調和、一体感、日本は一つなど、日本ライオンズのこれからを語り合いました。

28日は開会式。夜には331複合地区の夕べと、その後331‐B地区の夕べが開催され、何百人もが参加されました。

29日は朝6時半から日本ライオンズ朝食会で国際理事候補者としてスピーチ。第2回総会では会場での選挙PRと、壇上で立会演説を行いました。

いよいよ最終日の閉会式。山田新国際会長誕生のアナウンスに万雷の拍手が沸き起こり、登壇した新会長はすばらしい就任演説をされました。私たち新国際理事の選挙結果は山田会長が発表され、喜びもひとしおでした。午後には新役員によるバナー交換レセプション、国際理事会オリエンテーション、夜は新国際役員レセプションがありました。翌7月1日は写真撮影や各委員会会議（私は奉仕事業委員会に配属）、配偶者オリエンテーション、各種説明会、昼食会、ファミリー・レセプション・ディナーと盛りだくさんでした。

やることなすこと全てが初体験。緊張の連続です。帰国後も次々と英文の資料が山のように送られてきます。国際理事という任の重みを目の当たりにする思いです。しかしライオンとしての基本は「ライオンズの誓い」であることは、これまでも、これからも変わりありません。更なるライオニズムの高揚に向け「レッツゴー！」。

ライオンズ・ニュース・カセット

LIONS NEWS CASSETTE

「和」をテーマに青少年が集った世界スカウトジャンボリー

７月29日～８月９日、山口市阿知須のきらら浜を主会場に第23回世界スカウトジャンボリーが開催された。世界スカウト機構が４年に１回開催するもので、１５０の国と地域から14～17歳のスカウトと指導者ら約３万４千人が参加した。日本のライオンズクラブはこのジャンボリーを支援してタープテント２１９０張、カセットコンロ４８００台を寄贈。これらは約２週間のキャンプ生活で活用された。会期中は連日35度を超える猛暑が続き、ライオンズ・ロゴの入ったタープテントは各国スカウトが設営した色とりどりのテントの間に張られ、強烈な日差しを遮るのに大いに役立っていた。今回のジャンボリーのテーマは「和」。環境、平和、開発を柱にプログラムが組まれ、広島市を訪れて平和を考える広島ピースプログラムや、地元市町村と交流する地域プログラムを体験した。

ライオンズによる支援は、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟から336‐D地区へ支援要請があったのを受けて八複合地区議長連絡会議が全国レベルでの協力を申し合わせたもので、７月末までに全国の地区及びクラブから約５千万円の支援金が寄せられた。

第１回日本ライオンズ・ガバナー協議会開催

日本ライオンズ国際委員会と同ガバナー協議会の第１回会議が、７月14日、東京都中央区の銀座ブロッサムで開催された。両会には来賓として、山田實紘国際会長とスコット・ドラムへラー事務総長兼幹事が出席した。

国際委員会では今年度の委員長に西川義規国際理事、副委員長に八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議世話人を務める近藤正彦330複合地区議長を選任。山田会長の主要プログラムである「子どもの尊厳イニシアチブ」への取り組みを始め、国際協会１００周年、ＬＣＩＦ、福岡国際大会などについて協議した。

続く日本ライオンズ・ガバナー協議会では、まず昨年までの同会の名称「全国ガバナー会」を「日本ライオンズ・ガバナー協議会」へ変更する提案がなされ、出席の全地区ガバナーの賛同を得て改称を決定。同協議会は決議機関ではないが、全地区ガバナーが集い日本レベルや各地区共通案件について審議を行う場であることを確認した。その後、国際理事によるホノルル国際大会及び理事会の報告に続いて、ドラムへラー事務総長の講演が行われた。事務総長はまず、国際理事会長期計画委員会において策定されている国際協会戦略プランについて解説。これは次の１００年の方向性を定めるためのもので、ライオンズにとって最も重要なのは地域への奉仕であるとの視点から、協会の組織強化やＰＲなどについて考察しているとした。また、国際理事数の再配分や国際第３副会長職の再導

入など、ホノルル国際大会の代議員投票で可決された5項目の会則改正、ライオン誌のデジタル化に関する移行プラン、LCIF理事会の再構築などについても説明した。

なお、日本ライオンズ国際委員会は国際理事、LCIF国際理事、国際理事会アポインティー、及び国際協会100周年、GMT、GLT、FWT、LCIFの各国際レベル委員と各複合地区議長で構成されるが、新年度に入ってGMT、GLT、FWTに異動があり、会則地域副リーダーとエリア・リーダーが次の役員に交替した。

■GMT／会則地域副リーダー：鈴木誓男アポインティー、エリア・リーダー：東日本＝金子正之元議長、西日本＝丸山正芳元議長

■GLT／会則地域副リーダー：不老安正元国際理事、エリア・リーダー：東日本＝牛木護元議長、西日本＝城阪勝喜元議長

■FWT／会則地域副リーダー：河合悦子元議長、エリア・リーダー：東日本＝大石誠元地区ガバナー、西日本＝松前龍宗元議長

新体制になったLCIF理事会

今年4月の国際理事会におけるライオンズクラブ国際財団（LCIF）の運営体制再編計画の承認、6月の国際理事会における運営方針改正を経て、7月1日からLCIF理事会の構成が改たまった。従来のLCIF理事会には国際協会（LCI）の国際理事全員が含まれていたが、新体制では左記の構成で3年任期（毎年変わる職位でない限り）21人のLCIF理事が選任される。この再編に伴い、LCIFステアリング委員会は6月30日をもって終了した。

【LCIF理事会の構成】

理事長：前国際会長　構成員：LCI執行役員3人／元国際会長2人（直近のLCIF理事長）／会則地域の代表8人（各会則地域及びアフリカから1人）／過去3年間平均で会員数が最多の2カ国の代表／過去3年間1人当たり平均献金額が最多の3カ国の代表／国際会長が任命する理事2人（1人は元国際会長、1人は元国際理事。同じ会則地域からは任命されない）

今年度は移行年度として、3年任期のLCIF理事13人には昨年度までのLCIFステアリング委員が任期1年で就任する。日本からはLCI執行役員である山田實紘国際会長と、「過去3年間平均で会員数が最多の2カ国の代表」の栢森新治元国際理事がLCIF理事会の構成員となった。また、LCIF執行委員会はLCIF理事長、LCI執行役員、直近のLCIF理事長、幹事、会計で構成され、幹事に栢森LCIF理事が就任した。

336-B地区と県赤十字血液センターが献血推進事業で連携協定締結

【尾﨑博336-B地区ガバナー】7月3日午後2時半から、岡山市内のイオンモール岡山未来スクエアにおいて、336-B地区と岡山・鳥取両県の赤十字血液センターの連携協定締結式が挙行されました。式には岡山県赤十字血液センターの池田和眞所長、鳥取県赤十字血液センターの佐々木信之所長にご出席を頂き、当地区から

左から尾﨑ガバナー、池田所長、佐々木所長（撮影／滝口広志地区広報委員長）

は、地区ガバナーである私の他、大谷博第1副地区ガバナー、太田健一第2副地区ガバナーが同席しました。今回の協定締結は金礪毅環境保全委員長の強い働き掛けの下、実現の運びとなったもので、単一地区と赤十字血液センターが献血事業で連携協定を結ぶのは全国初の試みであります。昨年の岡山・鳥取両県の献血者数は10万8798人、そのうちライオンズクラブの活動による協力者数は9157人と約1割近くの実績を上げております。今後少子高齢化が更に進む中で、血液の受給バランスが大きく崩れてくると予測されていることから、ライオンズクラブとして改めて赤十字血液センターとの協力関係を強め、地域における献血推進活動の更なる拡充を目指すことがこの協定の目的です。

当地区においては複数回献血、集団献血の推進を始め、若者の献血者数の増加にも重点的に力を注いでまいります。山田實紘国際会長のテーマに「命の尊厳」とあることから、今期早々のキックオフイベントして、まず献血事業を取り上げました。これに呼応して、早速献血事業に取り組むクラブもあり、今後の波及効果が大いに期待されるところです。

竹本純一337-E地区ガバナー逝去

竹本純一337-E地区ガバナー（熊本ライオンズ）が、7月20日急逝された。享年76。ホノルル国際大会閉会式で2015-16年度地区ガバナーに就任した。

2014-15年度ライオン誌日本語版ベスト・エッセー賞

ライオン誌日本語版委員会は、「獅子吼」欄掲載原稿の中から特に優秀なものを選考し、毎年9月の「ライオン誌月間」に「ベスト・エッセー賞」として発表している。14-15年度の受賞は左記の通り。

小谷弘（島根県・安来十神ライオンズ）
14年9月号「ライオン誌が取り持った北の大地札幌での至福のひと時」

植野克彦（高知中央ライオンズ）
14年12月号「68年目の原爆回想記」

古川真二（京都ロイヤル ライオンズ）
15年6月号「フレッシュな気持ちを大切に」

日本ライオンズ連絡事務所・ライオン誌日本語版事務所の移転

日本ライオンズ連絡事務所とライオン誌日本語版事務所は、左記住所へ移転します。連絡事務所は8月17日から、ライオン誌事務所は9月1日から新事務所で業務を行います。

■移転先住所：東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階

■日本ライオンズ連絡事務所 TEL：03-3262-1263 FAX：03-3241-4388

■ライオン誌日本語版事務所 TEL：03-6674-7502 FAX：03-6674-7515

会議録

■第12回ライオン誌日本語版委員会（7月7日）①ライオン誌日本語版事務所の運営②議長連絡会議との合同検討委員会③15-16年度ライオン誌日本語版事務所予算（案）④7月号（6月20日見本／9万8200部発行）出来⑤8月号記事内容の確認⑥9月号以降台割（案）⑦その他

■第1回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（7月13日）①ホノルル国際大会・国際理事会報告②前年度からの引き継ぎ事項の確認③各種会議要録④日本ライオンズ連絡事務所運営関係

解散クラブ

7月＝埼玉県・鶴ケ島／北海道・定山渓／広島県・北広島豊平／島根県・美保関

訃報

■元国際役員

岡野劼好（茨城県・土浦環）
7月10日死去。87歳。02年度333-B（現333-E）地区ガバナー。

髙橋晴彦（岩手県・和賀）
7月20日死去。73歳。11年度332-B地区ガバナー。

塩田勇昭（東京巣鴨）
8月3日死去。83歳。97年度330複合地区ガバナー協議会議長、330-A地区ガバナー。

■献眼者

6月＝関根武（長崎南）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

額を一括で全額受け取る機会を提供するため、年金プラン改正を承認。
4. 2015年7月1日より、地区ガバナーは1,000ドルを超える航空運賃については発券に先立ち国際本部旅程課から承認を得なければならないという内容への理事会方針変更を承認。1,000ドル以内の航空券については、許可されている座席クラス及び旅行期間における、最短直行ルートによる最も低額の標準運賃または割引運賃で予約されなければならない。
5. 2015年7月1日をもって理事会方針を改定し、有資格の元国際理事には年間最低1,200ドルの予算を提供することを承認。

リーダーシップ委員会

1. 複合地区、単一地区、準地区の各レベルにおいて、GMT及びGLTコーディネーターの任命を行うべきグループが適任者の任命に合意出来ないために空席が生じている場合には、かかる空席を補充する権限を国際会長に与える方針を承認。
2. 推薦証明及び資格証明を受けた国際役員候補者がGMT国際コーディネーター、GLT国際コーディネーター、家族及び女性国際コーディネーター、GMTまたはGLT会則地域リーダー、GMTまたはGLTエリアリーダー、GMTまたはGLT特別エリア・アドバイザーを務めることを禁ずる方針を承認。

LCIF

1. LCIF財務委員会の報告を承認。
2. ライオンズクラブ国際財団の法人定款及び内規を改正し、LCIF理事会の構造に関する変更内容を反映させた。
3. LCIF運営方針書と内容が重複することから、理事会方針書第16章を削除した。
4. LCIF運営方針書を改正し、LCIF理事会の構造に関する変更内容を反映させると共にその他の必要な事務的変更を加えた。
5. 2015-16年度の投票権を持つLCIF理事会メンバーを承認した。
6. 現行会計年度の人道支援交付金予算を、350万ドル増額した。
7. 総額307万1,671ドルとなる合計54件の一般援助、国際援助、及び四大援助交付金を承認した。
8. 1件の交付金申請を保留とした。
9. ライオンズクエストを、引き続き2018年6月30日まで四大交付金優先事業扱いとし、また、LCIFの糖尿病予防及び抑制プログラムを、引き続き2017年6月30日まで四大交付金優先事業扱いとした。
10. ブラジルにおける「ライオンズ-スペシャルオリンピックス・ミッション・インクルージョン」プログラムを支援する資金の一部である75万ドルの障害者援助向け四大交付金を承認。
11. 20万ドルの額によるライオンズクエスト・コミュニティー・パートナーシップ交付金プログラムの更新を承認。
12. フィンランドにおけるライオンズクエスト評価のために、12万5,000ドルの資金援助を承認。
13. キューバにおけるLCIFと111複合地区の合同低視力事業用に5,000ドルの交付金を承認。

長期計画委員会

1. 最大10人のメンバーから成る2015-16年度家族及び女性アクション委員会の設置を承認。メンバーの任命は山田實紘副会長が行い、2015年8月の国際協会執行委員会会議で記録される。

会員増強委員会

1. キューバとミャンマーのそれぞれの国の関係当局から承認を得ることを条件に、これらの各国におけるライオンズクラブ支部編成を承認。
2. ライオニズムに「単発的ボランティア活動」を取り込むための概念と戦略の模索に向け、会員増強委員会及びスタッフと連携するライオンズ及び／またはレオから成るワーキンググループ編成を承認。
3. 国際協会が結成を承認しないクラブのチャーター申請に対して100ドルの手数料が課されることや、チャーター・メンバーを追加する場合には30ドルを前払いしなければならないなど、最近行われた方針変更を理事会方針書に加えることを承認。
4. ライオンズクラブ国際協会が以前学生会員プログラムの不正使用を発見し、かつ学生会員が会員総数の5%以上を占めるいかなる地区についても、その地区内のすべてのキャンパスクラブ、及び会員総数の25%以上が学生会員から成る従来型クラブは、この確認についての連絡が行われた日付から45日経過後直ちにステータスクオ処分とされることを承認。
5. 2015年7月1日より、60複合地区を会則地域1所属と指定することを承認。
6. 例会出席を厳しく義務付けることはしないで、クラブ活動へのより柔軟な参加を認める内容に方針を変更することを承認。

PR委員会

1. 2018年1月より、ライオン誌全公式言語版の印刷版発行回数を年間4回に削減。
2. ライオン勲章を廃止した。
3. 理事会方針書第20章のアワードに関する箇所を、PR委員会報告書に添付されている別紙Aと差し替えた。

奉仕事業委員会

1. 2014-15年度ベストレオを選定。
2. 理事会方針書の第23章に含まれているレオ関係以外の青少年プログラムに関する方針を第1章に移すことを承認。
3. 理事会方針書第23章に含まれている、青少年プログラム課の目的に関わる古い情報の削除を承認。
4. 理事会方針書第23章の表題を現在の「青少年プログラム」から「レオクラブ・プログラム」に変更することにより、現在の構造を反映させることを承認。
5. 理事会方針書第1章の「青少年プログラム課」及びそれを表す文言を全て、「奉仕事業部」に変更し、現在の構造を反映させることを承認。
6. 理事会方針書第23章の「青少年プログラム課」及びそれを表す文言を全て、「レオクラブ・プログラム課」に変更し、現在の構造を反映させることを承認。

※上記決議事項のいずれかに関する詳細は、国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）でご覧頂くか、国際本部にお問い合わせください。

国際理事会決議事項要約

アメリカ・ハワイ州ホノルル
2015年6月21～25日

監査

1. 2015年6月30日付け国際協会及びLCIF会計計算書監査について、クロウホーワース社の代表から提出された詳細にわたる監査計画を確認。
2. ペイロシティ奉仕組織レポートに関する覚書、寄付者サービスに関する監査、臨時就業者解雇の新たな手順についての覚書を確認。

会則及び付則委員会

1. 108-LA地区（イタリア）、308-A1地区（シンガポール）、322-E地区（インド）の第2副地区ガバナー選挙抗議申し立てを却下し、下記を各地区の2015-16年度第2副地区ガバナーとして宣言。
 a. ライオンFabrizio Ungaretti - 108-LA地区（イタリア）
 b. ライオンJerrick Tay - 308-A1地区（シンガポール）
 c. ライオンVeena Gupta - 322-E地区（インド）
2. 324-A8地区（インド）の第2副地区ガバナー選挙に対する1件の抗議申し立てを支持し、324-A8地区で行われた2015-16年度第2副地区ガバナーの選挙を無効とし、2015-16年度第2副地区ガバナー職は空席であると宣言。これにより、第2副地区ガバナーの空席は国際及び地区の会則及び付則に従って補充されるものとし、手数料は、350ドルを差し引いた額が抗議申立人に返金されることを宣言。
3. ライオンらしからぬ行動をとったV.S.B Sunder地区ガバナーを厳しく非難し、地区ガバナー・チーム優秀賞の受賞対象外とした。会則関連抗議手順に従い324-A1地区（インド）において提出された申し立ては、2015-16年度地区選挙に関連するものであることから、この手順の下に処理されるべきものではないとして退けた。
4. 国際会則及び付則、並びに国際理事会方針を順守しなかったことを理由に324-B4地区（インド）のS. Arumugam地区ガバナーを解任。また、S. Arumugamは、今後元地区ガバナーとして国際協会、いかなるクラブまたは地区によっても認められないものとし、かかる肩書に伴う特権を一切持たないと宣言した。
5. 324-B4地区（インド）において提出された調停者の報告書は、国際会則及び付則、並びに324-B4地区会則及び付則との整合性がないことから無効であると宣言し、2015年4月26日に行われた2015-16年度地区ガバナー、第1副地区ガバナー、第2副地区ガバナーの選挙を支持。
6. 301-D2地区（フィリピン）における第2副地区ガバナー選挙を無効と宣言する調停者の裁定を、国際会則及び付則、並びに理事会方針との整合性がないことから無効であると宣言し、2015-16年度の選挙において301-D2地区（フィリピン）は、標準版地区会則に含まれている候補者支持の有無を問う投票用紙を用いることを勧告した。また、被抗議者の解任に関わる調停者の裁定を、国際会則及び付則、並びに理事会方針に抵触することから無効であると宣言。被抗議者が複合地区会則及び付則に違反したとの調停者の裁定は支持した。
7. 理事会方針書第15章に記載されている「善良な徳性の持主」の定義を、道徳的に卑劣な犯罪を犯した個人を会員とすることを禁じるものに改めた。
8. 理事会方針書第3章に定められる無記名投票の手順を改め、議長を務める役員による提案を可能にした。
9. 理事会方針書第15章の地区ガバナー停職処分に関する方針を改定し、その方針において内容が重複している箇所を削除すると共に、この方針の下、検討を要請するために必要となるクラブの数を改正した。
10. 理事会方針書第7章の標準版地区会則における誤字を訂正すると共に引用箇所について改めた。
11. 理事会方針書第15章に、2016年7月1日より有効となる中立オブザーバーに関する方針を新しく設けた。

地区及びクラブ･サービス委員会

1. Michael Bierwagen元地区ガバナーを、2015-16年度、123地区（ロシア連邦）を担当するコーディネーター・ライオンとして任命。Mirela Grigorovici元地区ガバナーを、2015年10月11日より2015-16年度の残る期間のセルビア共和国担当コーディネーター・ライオンとして任命。Kalle Elster元国際理事を、2015-16年度中、Fabian Ruesch元地区ガバナーを支援するためラトビア共和国担当の共同コーディネーター・ライオンとして任命。
2. 地区ガバナー・チーム優秀賞の申請書を改定し、受賞条件の達成に加え、国際協会の会則及び付則と方針の順守も必要条件とした。
3. 理事会方針書第5章の内容を、クラブ例会出席を強調するものではなく、クラブのアクティビティへの有意義な参加をより重視したものに変更。
4. 理事会方針書第7章Exhibit Bについてもその内容を、クラブ例会出席を強調するものではなく、クラブのアクティビティへの有意義な参加をより重視したものに改めた。
5. 理事会方針書第9章を改正し、新たなライオンズ国候補が特定されたら二つのクラブ結成を待たずともコーディネーター・ライオンを任命出来るようにした。
6. 事務的処理として、理事会方針書第9章O項2.d.の段落で言及されている項目についての誤りを訂正し、正しい段落が言及されるようにした。

財務及び本部運営委員会

1. 2015年度第4四半期収支予想（赤字）を承認。
2. 284万2,672ドルの赤字となる2016年度最終予算を承認。
3. ライオンズクラブ国際協会の従業員年金プランの下に年金受給資格を持つ中途退職者に、暦年2015年内に年金プラン給付

多くを失い、自分が持っている宝物に気づかされた

立谷 健二
（福島県・相馬ライオンズクラブ）

たちや・けんじ　1927年福島県相馬市生まれ。立谷醤油店代表取締役。94年入会。

東日本大震災は青天の霹靂でした。私は出先で地震に遭いました。長く揺れました。落ち着いてから自宅に戻ろうと思いました。

自宅は海岸から２００メートルの所なので、かなり危険な行為でした。しかし、家業は１２０年続く味噌醤油醸造業で、私は一家の主なのです。今振り返っても、帰らないという選択はありませんでした。車を走らせ、ラジオをかけると、「決して海岸線には近付かないでください」という呼び掛けが何度も流れていました。

デコボコ道をゆっくり走ってやっとたどり着くと、味噌蔵の屋根が落ちています。従業員が店の前を通る車に謝りながら、道路に散らばった土くれを掃除していました。当店には、大豆・米を保管する原材料蔵、味噌蔵、それに先祖が営んでいた質蔵の三つの蔵があります。そのうち二つが壊滅的打撃を受けていました。

ラジオでは午後3時50分に仙台港に津波が到達すると伝えていました。3時40分までに逃げようと全員に連絡し、ありったけの現金、貴金属を集めました。

ギリギリまで粘って定刻に出発。目指すは高台にある東部公民館です。車の中から、近所の方々が道路に立っているのが見えました。私はなぜ逃げないのかと不思議に思いつつ、必死で目的地に向かいました。今になってみると、一人でも二人でも無理やり車に乗せて避難させれば良かったと後悔しています。皆、流されてしまいました。

さて、全家屋、全工場が流されましたが、幸い家族は無事でした。ただ、従業員の手代木君が、足の悪いおばあさんを救出に向かい、二人とも亡くなってしまいました。申し訳ないことをしました。

1週間が過ぎ、私は所有するアパートに居を構えました。私は京都立命館大学茶道部の出身です。私を心配した先輩が連絡をくれ、「何が必要か」と尋ねてくださったので、避難所に居る方たちの衣類が欲しい、と答えました。すると全国のＯＢに発信して、私のアパートに衣類を詰めた段ボールが届き始めました。たちまちアパートは満杯になり、プレハブを建てました。それも満杯になり、空き家を1軒借りて収納しました。1日に15箱届いたこともありました。

それから私は毎日避難所（体育館）を巡り衣類を配って歩きました。被災された方々から大いに喜ばれたことはもちろんです。そんな日々を送りながら、茶道部の結束力の強さに驚嘆もし、私はとてつもない財産を持っていたのだな、と改めて思ったものです。

そのうち避難所で衣類が必要なくなると、届け先を被災地に変更しました。海岸部で波はかぶったものの、避難するまでではないと、とどまっている家々です。これも喜ばれました。特筆すべきは、大阪で縫製工場を経営している岡本様というＯＢです。ご夫婦で相馬にも来てくださり、作業服上下５００着を提供してくださいました。相馬の被災者は主に漁業と農業の従事者です。とても役に立ちました。

個人的には復興を優先しなければなりませんが、それ以上に世の中の温かさをしみじみ感じた震災でした。

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

噴火体験を2回したジオパーク

森　一男（北海道・サッポロシニア）

『ライオン誌』6月号の特集「洞爺湖有珠山ジオパーク」を興味深く読んだ。私は、北海道・有珠山の噴火を2回体験した。尋常高等小学校2年生の時と新聞記者になってからだ。

　ギラギラした真夏の太陽が照りつけ、セミ時雨がうるさい程だった。突然、真っ暗になった。わらぶき屋根の綿羊小屋の前に居た私は、金縛りにあったようにその場に立ち尽くした。セミの声が、消えた。5分も過ぎただろうか、まぶしい太陽が帰ってきた。足元を見ると、白っぽい灰が1、2㌢積もっていた。

　1945年の終戦の夏。私の故郷・室蘭には軍需工場があり、米軍の艦砲射撃に遭うので、母の実家がある旧洞爺村に疎開していた。いがぐり頭の小生には、真っ暗になった天変地異を全く理解出来なかった。

　昭和新山の降灰が原因と分かったのは、何年も後だった。昭和新山は44年に有珠山の活動で麦畑が隆起して誕生した。活発な活動については、戦時中だったため、不吉な予兆として報道されなかった。何回も噴火を重ね、今のような溶岩ドームが形成された。

　それから32年後の77年8月7日、有珠山は地鳴りと共に大爆発した。私は当時、読売新聞の記者として札幌に勤務していた。

　その日の昼下がり、前線デスクと現場に着いた。洞爺温泉街にはこぶし大の噴石が飛び、危険だった。取材の前線本部は、隣町・壮瞥の読売新聞の販売店に構えた。取材陣は、記者、カメラマン、電送係など約30人。販売店の店主・毛利寛蔵さんは大のカメラファンで、噴火の瞬間をカメラに収めていた。迫力のある写真は新聞の一面を7段で飾り、読者の写真コンクールでこの年の日本一になった。温泉街は観光客やホテルの従業員も逃げ、廃墟と化していた。

イラスト／小川和政

　毛利さんは昭和新山のふもとで土産屋を経営、有珠山のことは我が庭のように知り尽くしていた。「よし、山に登ろう」と、毛利さんは噴火当日の夜、切り出した。「危険だよ」の声もあったが、命知らずのカメラマンが「オレ、行く」と名乗り出た。記者は、スポーツマンの2年生にした。当時の紙面にルポ記事が載っている。

「午前9時、有珠山の外輪山に着いた。地震だ。真下から突き上げてくる大きな揺れ。大有珠から岩が、ぶつかり合い落ちて来る。また地震だ。さっきより大きい。噴火口は目前にある。直径100㍍程の穴だ」

「これが、地球の呼吸穴」と、小生が記事に手を入れた。危険な取材は、「現場に一歩でも近付きたい」という記者の執念だった。今なら許されない、暴

挙だった。
　有珠は30～60年の周期で、地下のマグマだまりが「定量」になると爆発する。マグマが地表に出る時は何日も前から、山体を揺する地震が発生する。00年の噴火では、前兆現象で住民が全員避難し無事だった。有珠はウソをつかない正直な山だ。有珠の危険と同居しながら、温泉街は発展している。
　地殻変動を間近に見える00年の西山の火口散策路は何回も訪れた。洞爺ビジターセンターは生きた教材を提供してくれ、有珠の性格を知るのに役立つ。
　5月の鹿児島県・口永良部島の噴火は、訓練の大切さを教えてくれた。私は連合町内会の副会長として、小学校の避難所運営準備委員会の会長もしている。住宅街の裏手には山々が連なる。昨年8月、広島で大規模な土砂災害が起きた。訓練を重ねて住民の命を守らなければならないと思う。（331-A地区PR・ライオンズ情報委員長／98年入会／77歳）

大伴家持が見た海

燕昇司 正夫（富山県・高岡アラート）

　万葉歌人・大伴家持が、越中国守に赴任したのが28歳。在任期間は天平18（746）年～天平宝勝（751）年。5年余りの任期中に多くの歌を詠みました。豊かな自然に恵まれた越の国を見た家持は我々に感動を与える歌を残したのです。
　巻17・3954
　馬並めていざ打ち行かな澁谿の清き磯廻に寄する浪見に
　歌意（馬を並べてさあ出かけよう、澁谷の清らかな磯辺に寄せてくる波を見るために）
「澁谷」は越中国府のあった高岡市伏木の海で、岩礁の続く景勝地。この一首は家持が歌宴後に、皆に美しい清らかな海を見に行こうと呼び掛けた歌です。
　次に、巻17・3959
　かからむとかねて知りせば越の海の荒磯の波を見せましものを
　歌意（こうなるとあらかじめ知っていたら越の海の荒磯の波を見せてやるのだったのに）
　天平18年、家持は弟の書持（ふみもち）が亡くなったことを伝え聞き、この歌を詠みました。弟を思っては越の海を眺めたのです。夭折した書持に最も見せたかった景色が、風光明媚な越の海です。掲示歌2首から、家持はとても海を好んだことがよく分かります。海への畏敬の念を叙景し、また家持の弟を思う心を叙情しています。
「清き波を見に」、「波を見せましものを」といった言葉から古代の越の海の美しさ、清らかさをうかがい知ることが出来ます。家持が見た1250年前の越の海は、これらの言葉にふさわしいものだったのでしょう。
　澁谷は現在の海岸付近で高岡市北部の海岸。能登半島国定公園に含まれ、日本の渚100選に選ばれています。富山県は弓形を描くように147キロの海岸線が延びています。その海岸線の西部に位置する所に高岡市（澁谷）があり、大伴家持は日々、国守の仕事をしていたのです。
　この万葉の地に、今年3月8日に認証状伝達式を挙行し、高岡アラートライオンズクラブが誕生しました。5月7日、朝6～7時の早朝例会の後、初めての清掃奉仕が計画されました。場所は高岡市松太枝浜海水浴場。出席者は伊勢

鉄弥環境保全委員長を始め24人。ウィ・サーブの精神を知る機会と、絶好の清掃日和に恵まれました。海岸には流木の残片、ペットボトル、漁具、タバコの吸い殻、そしてプラスチックの日常雑貨類など、多種多様のゴミがありました。大きなゴミは比較的拾いやすいのですが、1センチくらいのプラスチック片などは、手間が掛かる割に成果が無いのです。現代社会に生きる我々は科学の恩恵を受けた便利な生活と引き換えに、自然を破壊していることを思い知らされます。清掃活動を啓発し、ポイ捨ての不道徳を無くして、環境保全の意識を高めるのは大切なことです。

かつての白砂青松の海が、現在、ゴミだらけに変貌したのを見たら、家持は嘆き悲しむでしょう。私は家持を思い、彼が望む清い海、清潔な浜辺を取り戻すために、小さな破片を拾い集めました。家持が弟に見せたいと希求した海に、少しでも近づけたいという気持ちを胸に、清掃に汗したのです。「万葉集に詠まれた海のように、白砂の浜辺のように」とつぶやきながら、海辺のゴミ拾いをしたのです。今を生きる私たちは、後世の人々のために美しい自然を残し、裸足で楽しめる浜辺を美化する天命があります。家持の心に同契し、我々は美しい山、海、川を残す責務があります。自然が在り、人の心が有るところに詩が生まれ、歌が出来るのです。

環境保全を目指す当クラブにとって、緒に就いたばかりの事業です。メンバーと力を合わせ一歩一歩進みたいと願うのです。

（14年入会／68歳）

２０４５年問題とは

田崎 登保（宮崎県・日向）

皆さんは２０４５年問題という言葉をお聞きになったことがありますか?

難しい言葉ではシンギュラリティ（Singularity／特異点）と言うらしいのですが、私にもよく理解は出来ません。

特異点とは、ある基準の下でその基準が適用出来なくなる点で、さまざまな特異点があるそうですが、ここで取り上げるのは技術的特異点です。コンピューター技術や生命科学などの進歩発展によって、２０４５年頃に技術的な特異点が生じて、これまでの世界とは全く異なる、不連続な社会がやってくると予測されています。

つまり、加速度的に進歩するテクノロジーにより、人工知能が人間の知能を追い越すだろうとされ、その結果がいろいろと予測されているのです。

つい先ごろ長崎県にあるテーマパーク・ハウステンボスで、人型ロボット（アンドロイド）により運営される店舗のことが話題になりました。ロボットの進歩は独り暮らしの相手から始まり、介護や工場の作業場などにも普通に取り入れられてきています。囲碁や将棋の名人でさえ打ち負かすコンピューターもありますが、これらはまだ知性を持っているのではないのです。圧倒的なデータの中から、最善の一手を選んでいるだけなのです。

人の脳は１４０億個もの神経細胞（ニューロン）の集合体であり、情報の受け渡し場所となるシナプスの結合に

より、その間に電気的なパルス信号を伝達しているに過ぎないことが分かっているそうです。つまり人間の脳の神経細胞と同程度のニューロンを持つ、ニューロコンピューターを実現出来れば、知性のあるコンピューターが出来ることになります。

そして２０４５年頃には、知性を持ったニューロコンピューターが人間の知能を超えて、コンピューター自体がもっと優れたコンピューターを設計し製作するというのです。人は遺伝的にニューロンの数には限度がありますが、コンピューターの世界では無限に増やすことが可能であり、その時になれば、地球にとって害にしかならない人間は、不要のものとして排斥されるのではないかとも予測されています。

その前に２０３０年代には、人間の脳の全ての機能をそのままコンピューターにコピーする、アップロードが可能になるとも言われています。従来の炭素系化合物であった人間が、進化したシリコンチップの人間として、生まれ変わることも可能というわけです。

その時、何が起こるのか。今、世界の識者の間では真剣にこの問題が研究・検討されており、日本は取り残されているのが実情のようです。

まさにＳＦの世界、映画『ターミネーター』の世界なのですが、そのインパクトは、現実の世界が想像も出来ないほどの変化を遂げるだろうと考えられています。人間社会の在り方や、人間の存在意義さえ根底から覆しかねない大事件なのだと言われているのですが、さて。

人の持つ夢や目的は、漫画やＳＦの世界を通して、現代の私たちに未来を見せてくれているのではないかと思うのです。この話、あなたは面白いと思いますか。それとも怖いとお思いですか？

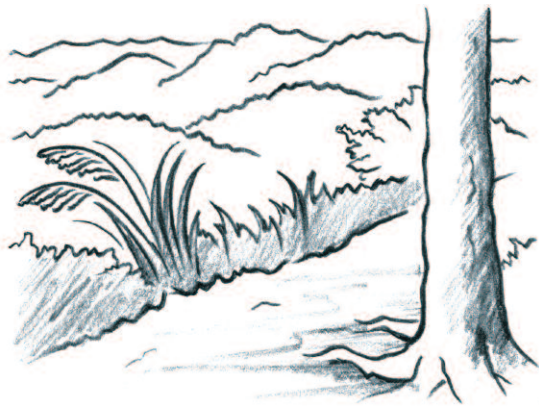
（元地区ガバナー／74年入会／75歳）

命と名誉と富かけて

村上 正郎（愛媛県・今治中央）

「刎頸の交わり」の語は中国の歴史書「史記」に見え、「その人のためならたとえ首を切られても悔いは無い」という最高の友情を表す言葉としてよく引用されてきた。友情のありがたさや楽しさは経験もしたし話も聞いていて、それが人生の宝であることは分かっていても、「刎頸～」は中国式の少し大げさな表現かなと感じていたものだ。

第２次世界大戦から数年経って少し落ち着いた頃、あの過酷な戦争を生き残った同期の友人たちに会いたいと、学友の消息を集め同窓会にこぎつけた。もう顔を見ることの出来ない多くの友人たちのことが話題の中心になり、中でも、シベリアで亡くなった石村武雄君の話になると、もう涙が止まらなくなった。

石村君は卒業後日本製鉄に入社し、北朝鮮のソ連国境に接する羅津の工場に配属された。度の強い眼鏡を掛けていたので気難しげに見えることもあったが根は優しく、大阪出身らしいひょうきんでおもしろい男だった。羅津では先輩上司に可愛がられ、ことに同僚の山本正治さんには、独身は不自由だろうと家族のように付き合ってもらっていた。昭和20年8月、山本さんの奥さんがかわいい赤ちゃんを産み、石村君ら同僚から祝福を受けた直後、山本さんに召集令状が来た。後ろ髪を引かれる思いで入隊していった山本さんの

部隊は、数日後、突如侵入してきたソ連軍に包囲され捕虜となり、シベリアへ連行されることになった。知らせを聞いた石村君はすぐ近くの駐屯地に駆け付け、ソ連軍のトラックの間を探し回って山本さんを見つけた。
「山本さん、奥さんや赤ちゃんを残して行っちゃあいけないよ」
「そんなこと出来ないよ。仕方ないだろ」
　山本さんがうめくように叫び返した時、ソ連軍の隊長と通訳がやってきた。
「この人には生まれたばかりの赤ちゃんと、まだ動けない奥さんがいるんだ。この人を返してあげてほしい」
「だめだ」
「それなら僕が身代わりになる。人数が合えばいいだろう」
　石村君は無理やり山本さんをトラックから引き降ろし、代わりに自分がトラックに飛び乗った。呆然とたたずむ山本さんを残しトラックは土ぼこりの中を遠ざかり、手を振る石村君の姿も見えなくなった。
　山本さんは妻子を連れてかろうじて本土に帰ったが、身代わりになった石村君のことが気になって落ち着かず、何度も舞鶴の復員事務所を訪ね、復員船を出迎えたが石村君は帰ってこなかった。そのうち、石村君はシベリアの収容所で過酷な重労働に明け暮れるうち病気で亡くなったと知らせてくれる人がいた。山本さんは償う機会を失い、肩の荷を一生下ろせないことになった。
　この話は、石村君の消息を日本製鉄へ問い合わせた時に、山本さん本人から届いた長文の手紙に書かれていたものである。その時私たちは、命を掛けた友情、刎頸の交わりが本当に有ることを初めて知ったのだった。その後、山本さんは祈ることと、弱者救済の社会奉仕に全力を尽くすことで償いをしようと決心したという。2人の個人的な友愛が、もっと広い人類愛に昇華していくのが見えたように思った。
　手紙を読んだ私たちも、生き残ったのはこの荒廃した祖国を再建する任務のための要員として天が残したものだと考えないと、若い命を散らした友人たちに申し訳ない。この娑婆で戦死するまで任務の遂行を怠るまいと、山本さんと同じような祈りと社会奉仕を誓い合った。かけがえのない宝である平和と自由をタダで満喫するなど有り得ないことである。どんな代償を払っても足りないくらいのものだ。その時誓い合った生き残りの友人たちのうち、私を含めて4人がそれぞれの地域でライオンズクラブのメンバーになったが、次々生涯現役で世を去り、今、在籍しているのは私だけになった。
　平和という言葉は重い。多くの友人たち、ことに石村君からそれを教えられてから、私は平和という言葉をめったに使わなくなったように思う。使う時はいつも、そのために自分を捨てられるかと、鳥肌の立つような問いかけが聞こえるからである。
「命と名誉と富かけて〜」と歌う時には、胸の動悸が高くなる。ことに8月は、せつない。

（63年入会／91歳）

松江湖城ライオンズクラブ
認証45周年記念
2009年 5月 吉日

故郷への想いから生まれた「原始」のキャラクター、駅前に現る

取材／砂山幹博　写真／田中勝明

太い骨の周りに付いた輪切り肉や巨大な石文字など、その独特な世界観で一世を風靡（ふうび）した「ギャートルズ」をご存じだろうか。架空の原始人たちが繰り広げるユーモラスな日常を描いた故・園山俊二原作のギャグマンガで、1970年代中頃には「はじめ人間ギャートルズ」としてテレビアニメにもなっている。

作者の園山俊二は松江生まれ。近所の子どもと一緒に松江城の外堀で釣りをし、宍道湖でしじみを採るような少年時代を過ごしていたようだ。ギャートルズでも描かれているマンモスと共にたくましく生きる主人公ゴンらの原点は、この松江で経験した自然との対話、たくさんの友情、そして故郷への愛情にあったと言われている。

こうした作者の思いに敬意を表し、松江湖城ライオンズクラブで、園山作品のブロンズ像を作る計画が持ち上がった。早速、市に協力を求めたところ、市内で一番人通りが多いJR松江駅前の一角（松江勤労者総合福祉センター前）を提供してもらえることになった。

2009年、クラブ結成45周年記念として市に寄贈されたブロンズ像は、「イノシシにまたがるゴン」と「マンモスを追いかけるゴン」の2体。山陰屈指の観光地の一つにもなっている境港市の「水木しげるロード」の妖怪像も手掛けた松江市出身の造形作家によるものだ。

「松江市の宍道湖東岸、島根県立美術館脇の公園にはもともと別の園山作品のブロンズ像があります。当初案では、この駅前の像から宍道湖岸の像までの間にたくさんの園山作品像を作るというものでした。ところがなかなか実現というわけにいかず、現在もこのままとなっています」とは、企画から携わった、当時の記念事業部長ライオン三島進。

いつの日か、園山作品に誘われて、宍道湖まで続く、松江の「ギャートルズロード」を歩いてみたいものである。

■島根県・松江湖城ライオンズクラブ（吉岡彰会長／90人）＝1964年6月14日結成／盲導犬を正しく理解してほしいとの願いから、盲導犬育成支援事業に注力している。主な活動は街頭での募金活動だ。盲導犬訓練センターやPR犬、時には盲導犬ユーザーの方にも参加頂き、通りがかった街の人々に盲導犬と触れ合う機会を提供している。また、市内の小学校を対象に盲導犬及び視覚障害について学習する盲導犬学校キャラバンを実施する他、盲導犬育成支援チャリティーゴルフコンペを企画。盲導犬育成のための資金獲得、並びに啓発活動を展開している。

Close up

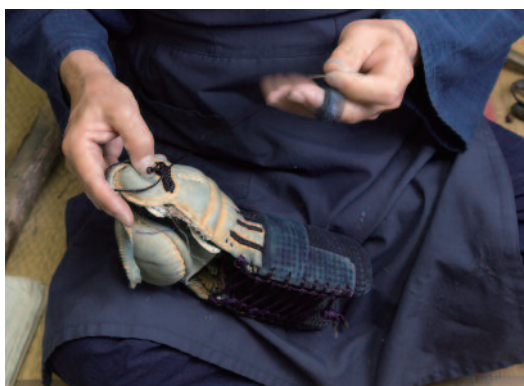
手刺しの技術を守り半世紀余 剣道具の名工

■博多屋敏昭

はかたや・としあき　㈲博多屋武具店取締役社長。1943年1月生まれ。15歳で福岡の武具製造会社に入社し、24歳で長崎に戻り独立。「武昭」の銘を持つ剣道具は全国の剣士に愛用され、特に甲手に対する評価は高い。98年度、剣道具製造分野では初めて「現代の名工」に選ばれ、2011年には黄綬褒章を受章した。90年に長崎ライオンズクラブ入会。2000年度幹事。

私の所で作る剣道具は、一針ひと針全て手刺しです。防具には面、胴、甲手、垂れがあって、普通は面なら面、甲手なら甲手と専門に作る職人が多いですが、私は一式全て作ります。機械も要りませんし、作る楽しみがあるとですよ。師匠が全部作られてたので、私も出来るようになったんです。

この仕事を始めたのは、中学を出て少し経った頃でした。遠い親戚が福岡市で武道具の卸販売をやっていて、剣道具の製造を始めるのに人手が足りないということで、私に声が掛かりました。剣道具は見たことがあるというぐらいで、職人になろうという気もなかったんです。でも、都会への強い憧れがあったからですね、行くことに決めました。私がついた師匠は岡山から招かれた手刺し専門の職人です。でもほとんど何も教えてはくれませんでした。自分で考えてやってみては師匠の仕事と比べて修正する、ということを繰り返して、少しずつ技術を学んでいきました。

9年間修行をして長崎に戻りましたが、店を構える資金は無いからですね、自分の作ったものを見てもらおうと九州各地の問屋や小売店に品物を送って受注を始めました。この時は甲手専門です。甲手は傷みやすいので需要があったんです。何年かして、ある武道具メーカーの社長さんが、このままでは下請けだから自分の銘を付けるように勧めてくれました。「武昭」と言いますが、おかげさまで全国に知ってもらって、当時は家内も一緒になって夜中の2時、3時まで仕事するぐらい注文が入りました。

職人の間では防具の中で一番難しいのは甲手だと言われます。面や胴は着けるだけですが、甲手は竹刀を握らんばならんですから、微妙なものがあるわけです。どうしたら素手で持った時と同じように握れるか、どうしたら体の一部になるように作れるかと、いろいろと試行錯誤してきました。実際に使って頂かんと良さは分からんですから、使いやすいと言ってもらえるのが一番うれしい。修理しながら長く大切に使ってもらえるものを作りたいです。ただ、今は安価な中国製が増えてどうにもならん。うちは息子もやってくれてますし、技術はいったん辞めたらそれで途切れますから、がんばって何とかやっていかんばと思っとります。

構成／河村智子　写真／田中勝明

古代毛氈入剣道具
武昭號

福島県川俣町

川俣シャモぶっかけ親子丼

川俣町は江戸時代、絹織物の生産で栄えた。当時、裕福な機屋（はたや）の旦那衆は娯楽として闘鶏を楽しみ、そのためにシャモを飼っていた。シャモは食用としても珍重され、おいしく食べるさまざまな工夫もなされた。

が、いつしか闘鶏はなくなり、シャモの姿も見なくなった。そんな中、1983年に川俣町がまちおこしの一環として食用シャモ肉の研究を開始。そして純系シャモに肉卵兼用種や肉専用種を掛け合わせて、「川俣シャモ」を生み出した。

現在、全力でシャモ推し中の町では、あちこちに「川俣シャモ」ののぼりがはためく。飲食店のメニューにもシャモ料理が載るようになった。写真の「川俣シャモぶっかけ親子丼」もその一つ。ぶっかけというぐらいなので当然つゆだく。この汁もまただしがきいてうまいのだが、何と言っても主役は豊かなコクと適度な弾力がある「川俣シャモ」。鶏本来のうまみが口の中にじんわりと広がる。

●「あじせん楓亭」福島県伊達郡川俣町飯坂古中道5-2

香川県 綾川町

取材／鈴木秀晃　写真／田中勝明

讃岐うどん発祥の地は うどん県・香川のど真ん中

綾川

AYAGAWA

讃岐うどん発祥の地で さぬきの夢を味わう

　香川県の調査では、観光客が香川を旅行先に選ぶ理由のトップはうどん（43・2％）で、2位の名所旧跡（23・9％）を大きく引き離している。ちなみに、全国で最もうどん屋が多いのはやはり香川県で、人口10万人当たり約64軒は全国平均の3・4倍に当たる。当然うどんの消費量も抜きん出ており、香川県のうどん用小麦粉の使用量は年間約6万トン、全国使用量の実に23％を占める。まさに自他共に認める「うどん県」だ。

　ある統計では、県民一人当たりの年間うどん消費量は約230玉だという。今回の取材に協力頂いた綾歌郡ライオンズクラブの皆さんから、「週4か週5でうどんを食べる」と聞いて驚いたが、この統計を見ると香川県ではごく平均的な回数のようだ。

　讃岐うどんの歴史には諸説あるが、一般には綾川町滝宮の出身で、空海の甥にあたる智泉大徳を「うどんの祖」としている。空海から、唐に伝わる麺の打ち方を伝授された智泉が、故郷の両親をこの麺でもてなしたと言われており、これが讃岐うどんのルーツとして定着している。

　ただ、現在に至る香川県の「うどん文化」の始まりは、ずっと時代が下がった1960年代半ばのこと。この頃に香川県独特のセルフサービス方式のうどん専門店が登場してきた。それが88年の瀬戸大橋開通によって、本州から四国へ入る玄関口である香川に、多くの観光客がやって来るようになり、県外にも広がった。

　そして、これに歩調を合わせるかのように、香川県のタウン誌などを中心に讃岐うどんの情報発信が始まった。これがマスコミの目に留まり、テレビのグルメ番組や、雑誌・書籍などで讃岐うどんの露出が加速。90年代後半からはうどん屋巡りを目的に香川を訪れる人が急増し、休日になると観光客が有名店に行列を作る光景が見られるようになった。

　もちろん讃岐うどん発祥の地・綾川町にも人気うどん店が数多くあり、休日になると四国ばかりでなく、関西や山陽から観光客が押し寄せる。綾川にある道の駅「うどん会館」には、年間約30万人の来園者がある。

　そんな「うどん県」だが、実は讃岐うどんの原料となる小麦は90％を

「うどん」と書かれたのれんが出ているだけの隠れた名店「松岡」。限界を超えて作ると質が落ちるから、と毎日決まった数だけ打つ

香川県 綾川町（あやがわ）

綾川町は香川県のほぼ中央、2006年に綾歌（あやうた）郡の綾上（あやかみ）、綾南（りょうなん）両町が合併して誕生した。国の重要無形民俗文化財「滝宮の念仏踊」は讃岐国国司だった菅原道真が雨乞いによって讃岐を大干ばつから救ったことを称えて始まった。また滝宮は讃岐うどん発祥の地と言われ、毎年4月に滝宮天満宮で献麺式が行われる。大正天皇即位の際には、同町山田上の田が大嘗祭に献納する新米を作る主基斎田（すきさいでん）に選ばれた。ちょうど100年の今年、記念式典が行われ、町民約1500人が参加、当時の田植え儀式が古式ゆかしく再現された。

面積／109・75平方キロ　人口／2万3683人（2015年5月1日現在）

【交通アクセス】

高松琴平電気鉄道琴平線の挿頭丘（かざしがおか）、畑田、陶（すえ）、綾川、滝宮、羽床（はゆか）の6駅がある。

高松自動車道の府中湖スマートICから町役場まで約5分。高松空港からは約20分

最盛期には待ち時間が最長2時間、車の列が延々2キロも続いたという讃岐うどんの最人気店「山越うどん」。サッカーJ2「カマタマーレ讃岐」のチーム名の由来にもなったメニュー「かまたま」が代名詞

綾川町山田地区で「さぬきの夢2009」を生産するライオン川西正廣

❶綾川町には讃岐七富士のうち二つがある。写真はその一つ堤山（羽床富士）と、「ことでん」こと高松琴平電気鉄道の琴平線。讃岐七富士のもう一つは、高松空港の西約8キロにある高鉢山（綾上富士）で、山の中腹には県下唯一の風穴がある

❷町役場への最寄駅、滝宮駅は1926年の開業当時の姿を今にとどめる趣のある駅舎を持ち、ことでん綾川橋梁と共に近代化産業遺産に選定されている

❸龍燈院（明治元年廃寺）の僧侶が菅原道真の御霊を鎮めるため寺の側に社を建てたのが始まりという滝宮天満宮。道真は龍燈院の一角にあった官舎に住んでいた。龍燈院の初代住職は智泉大徳で、滝宮天満宮では毎年4月24日、鷽替え神事と共に智泉大徳を偲んで献麺式が執り行われる。龍燈院が所蔵していた木造十一面観音立像（国指定重要文化財）は現在、町立生涯学習センターに展示されている

輸入に頼っている。そんな状況を打破しようと、香川農業試験場が満を持して送り出したのが「さぬきの夢2009」だ。

　これは独特の食感と風味が強く支持されながらも、製麺やゆでている時に切れてしまうことが多く普及するには至らなかった「さぬきの夢2000」の後継品種で、グルテニン（タンパク質）の改良により、麺の切れが格段に減少。しかも、「2000」の特徴である滑らかさ、もちもち感、麺の風味をそのまま維持し、ダイナミックな弾力性が付加された。

　ここ10年ほどは香川県の小麦作付面積は約1500ヘクタールだが、現在は県内産小麦の全てが「さぬきの夢2009」になっている。収穫量ではまだ日本全体の小麦消費量の5％程度しかないが、香川県としては今後、讃岐うどんにおける「さぬきの夢」の使用比率を10％にまで伸ばしたいとしている。

創業から200年という歴史の重みを感じさせる綾菊の酒蔵。登録有形文化財に指定されている

手つかずの自然が残る綾川伏流水の恵み

香川県はため池が多いことで知られるが、裏を返せば雨が少ないということ。が、実は四国山地に降った大量の雨が、地下水となって瀬戸内海に流れ込んでいる所がある。綾川周辺もそんな場所の一つで、この辺りの地下水は水質が軟水で極めて良質。讃岐うどんのうまさの秘訣は、この地下水にもあると言われる。

　もちろん、水の恵みはうどんが独り占めしているわけではない。綾川町はまた、おいしい日本酒の酒蔵があることでも知られる。

　綾菊酒造は全国新酒鑑評会で13年連続金賞を受賞するなど、醸造技術の高さは折り紙付き。杜氏の国重弘明さんは、杜氏としては全国で初めて「現代の名工」に選ばれた人だ。

　その綾菊の蔵に入ると、入口近くに水神様が祭られている。蔵の下には枯れることのない綾川の伏流水が引かれた井戸がある。「綾菊を支えているのはこの井戸水。綾川の清流に恵まれたからこそ、ここまでこられた」と蔵元は話す。

勇心酒造が作る伝統的な日本酒と、最近の主力である化粧品

　綾川にはもう1社、勇心酒造という蔵元がある。もともとは海寄りの宇多津町にあったが、1988年に綾川に移転してきた。当初は水が変わることに不安もあったようだが、綾川の伏流水が非常にいい水であったことから、心配は霧消。最近では、伝統的な酒造りとは別に、古代米と綾川伏流水で、美容と健康に配慮した新しいタイプのアルコール飲料を作るなど、新しい挑戦もしている。

　その勇心酒造だが、現在の主力商品は、日本酒から化粧品素材にシフトしている。全く畑違いのように思えるが、米の発酵に関するノウハウを生かした事業展開だ。醸造発酵技術と現代の科学を組み合わせて、勇心酒造独自の技術「日本型バイオ」を生み出し、この技術を用いてお米から機能性素材「ライスパワーエキス」を開発した。現在、36種類のエキスを開発済み。そのうち「ライスパワーエキスNo11」は厚生労働省から新規効能「皮膚水分保持能の改善」として、医薬部外品の新規有効成分の承認を受けている。それが、化粧品業界からの注目を集め、現在は多くの大手化粧品メーカーに使用されるようになっている。

▼取材協力クラブ

綾歌郡ライオンズクラブ（深井紘二会長／19人）＝1968年2月22日結成／スポンサー：坂出ライオンズクラブ／綾川町にあるオイスカ四国研修センターの研修生と積極的に交流すると共に、クラブの奉仕活動に参加してもらっている。青少年育成にも力を入れ、国際平和ポスター・コンテストや読書感想文コンテストなどを実施、綾歌郡少年剣道錬成大会は今年で38回を数える。また、村を飢饉から救うため私財を投げ打って滝宮萱原の用水建設に尽くした久保太郎右衛門の遺徳をしのび、子孫が屯田兵として移住した北海道・秩父別のライオンズと姉妹提携をしている。

読者から―7月号

■先輩方の活躍を再確認

「特集：日本ライオンズの原点」を読み、日本におけるライオンズクラブの誕生から、先輩方の強いライオニズムにより、多くの活動が行われ、現在のライオンズがあることを再認識することが出来ました。我がクラブ及び周辺のクラブ会員に、ぜひこの記事を一読するよう、勧めたいと思います。

鹿児島県・川内第一ライオンズクラブ●西別府勇己

■時と国を超えて変わらぬ思い

アクティビティが国を動かす。地域社会を巻き込み、本当に必要とされる活動は何か、模索、探究しながら取り組むことを忘れてはいけないと思います。特集にあった「単なる寄付ではなく子どもたちのことを知ってほしい。また子どもたち自身にも問題に立ち向かう意欲を持たせたい（20ページ）」という文章。支援対象地域となることの多い私の住む北タイでもこれと同じ願いを持っています。時が流れてもライオンズの支援とアクティビティの本質、思いは変わらないのだなあと思いました。

タイ・ナコンチェンライライオンズクラブ●山地幸

■子どもたちに企画から参加を

子どもたちが奉仕に参加する機会はこれまでもありましたが、昨今は奉仕団体のみならず、地域社会全体で子どもの育成に力を注ぐようになってきました。そうした時、子どもたちが企画段階から参加することで、その活動の意義や手法、統括の難しさや重要性などを更に理解するようになります。一つのゴミを拾うことが、なぜ大切なのか？　大勢の参加をどうやって促すか等を考えること自体もその子の人格形成に役立つと確信します。

長野県・下諏訪ライオンズクラブ●西村厚志

■福岡国際大会で存在感を示す

家族会員パイロット・プログラムのおかげで、会員数はかろうじて体裁を保っているものの、子会員を除くと10万人を割っています。子会員の伸びも、プログラム2年目は1年目より4千人くらい減少し、鈍ってきた中で最終年を迎えました。35人の地区ガバナーの方々の抱負、方針等には山田實紘国際会長の下で共に活動出来る栄誉と100周年を契機とした飛躍、奉仕活動の展開や会員増強など並々ならぬ決意のほどがうかがえます。日本から2人目の国際会長を支え、2016年の福岡市での国際大会を成功させ、ライオンズクラブの存在感を全世界にアピールして頂きたいと思います。

福岡県・鞍手ライオンズクラブ●安永正信

●ライオン誌事務所来訪者芳名録

6/23 東京青山 大石和夫
6/24 東京 加藤光晴
7/7 新潟県新発田菖城 遠藤悟
7/16 北海道黒松内 茂尾実
7/21 千葉県佐倉 夏海優

読者プレゼント

■山越うどんの(新)生うどんを10人の読者に

今月号「ふるさと探訪」(49〜53ページ)で紹介した山越うどんの「(新)生うどん」を10人の読者にプレゼントします。店の味に近づけるため、職人が日々努力を積み重ねた「もっちり」かつ「コシのある」うどん2玉に、特製だしが付いています。丼に玉子を割り入れ、釜から直接取った麺と絡める、山越の「かまたま」をご家庭で手軽に楽しめます。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「山越うどん」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は9月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階　ライオン誌事務所
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp)の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=a.／第2問=b.／第3問=c.／第4問=a.／第5問=b.

もう一度読みたい「あの記事」

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

●1993年5月号　国際理事だより

「『総意』というものの評価」

土屋呂武（福岡ライオンズクラブ）

2月半ば過ぎ。私たちは突然、国際協会事務局エクステンション・会員部のジョージ・W・ホフマン部長から一通の書信を受け取った。内容が何ら前触れのない意外なことであり、一部で青天の霹靂（へきれき）という言葉が使われたのも無理からぬことである。

内容は次のようなものだ。

「国際理事会は1987年に、エクステンション・会員部の仕事は、有給スタッフを出来るだけ廃止して、ボランティアの仕事とすることを決定した。そして、既に約60％減員に成功した。ついてはこの方針に従い、日本における駐在員事務所を廃止し、堀越氏は来る5月1日をもって退職するよう通告する」

そして、通告文の末尾には堀越氏のこれまでの仕事ぶりをたたえ、退職金支給の件について付記されていた。

2月23日の第4回議長連絡会議では、当然、この問題が話題となり、各複合地区はそれぞれ当面のエクステンションを抱えているため、ガバナー協議会議長連絡会議として即時、ホフマン部長あて通告の撤回を求める書信の発送が決議された。同席の菊地、山口と私の3国際理事及び加々尾アポインティーも、その日常活動上、駐在員事務所の廃止は不利益の点が多いと判断、別文をもって撤回を申し入れた。

閉鎖通告の話はすぐに全国に広がり、重複をも省みず各複合地区はそれぞれ準地区ガバナー署名の上、直接、ホフマン部長に書信を発送した模様である。

その内容はほぼ共通して①困ったことになったと受け止めている②ボランティアでは堀越氏の多忙を引き継げる人を見つけることはほとんど期待出来ず、これまでのように説得力ある専門家が必要③差し迫ったエクステンション予定及びそれに付随する問題が山積しており、突然の廃止退職は混乱を招く恐れがある等、切実な訴えだった。

このように全日本をあげて廃止撤回を求め、国際協会の対応を待ったわけであるが、結果としてはホフマン部長の決定を覆すには至らなかった。ホフマン部長から3月4日付で最後通告とも思える書簡が届いたのだ。

「今回のことは、国際理事会の決議に基づいたものである。また、本件については過去において日本の国際理事たちと討議し、理解されたところである」

今回の廃止問題を通じ、私には1、2の所感がある。

その1は、国際理事会決議が容易に変更されてはもちろん秩序が保たれないが、少なくとも日本全地区をあげて意志を統一し、その「部分変更」または「修正」を緊急に申請した場合、そこに多少の弾力性を持たせられないか。これは決してわがままではなく、集団をあげての「要望」または「総意」に対し、どのような評価をするかとの問題であると考える。

その2は我々の反省とも言うべき事柄で、87年の国際理事会の決議に対する十分な認識がなかった事実。特に繁富一雄元国際理事が「日本は別である」ことを国際理事会で強調し、その旨の了解も得たはずという情報すら入ってきていなかったのだ。

駐在員事務所廃止後の諸問題、対策等に触れる誌面がないが、欧米的思考、処理をここに改めて認識し、今回多くの反省点とこれから率直に取り組みたい。

ライオン誌例会のススメ
——次の例会ですぐ使える情報

ライオンズ百科

■国際会長テーマと「和」

ホノルル国際大会の閉会式で、山田實紘新国際会長は「命の尊厳と和（Dignity. Harmony. Humanity.）」という国際会長テーマ（本誌8月号掲載）を発表した（写真）。今から34年前の1981年、東洋人として初めて国際会長に就任した故・村上薫元国際会長が掲げたテーマにも、同じ「和」の一文字が含まれていた。村上元国際会長が掲げたテーマは「みんなできずこう和の社会（People at Peace）」。ちなみに、山田国際会長のテーマのシンボルは鶴、村上元国際会長のシンボルには鳩が使われた。山田国際会長は就任演説の中で「（国際会長テーマの意味は）人間の命は皆平等であるという哲学のもとに、国際協調の中で人類の平和を探求する、ということ」と述べている。日本が輩出した国際会長が2人そろって、平和追求の理念を世界のライオンズに訴えている。

次号予告

特集 **ライオンズクラブ統計**

2014-15年度の世界と日本のクラブ・会員動静や、日本のアクティビティ集計などの統計データを掲載。会則地域別、主要国別、国内地区別のデータを網羅し、世界と日本のライオンズの情勢を把握することが出来る。また本誌が国内の全クラブを対象に実施したクラブ・アンケートの集計結果も収録する。

クイズ de 例会

〈第1問〉山田實紘国際会長は日本人としては何人目の国際会長？

a. 2人目　b. 3人目
c. 4人目

〈第2問〉ホノルル国際大会で選出された国際理事のうち、日本人は何人？

a. 1人　b. 2人　c. 3人

〈第3問〉国際本部があるオークブルックはアメリカのどの州にある？

a. ワシントン州
b. ニューヨーク州
c. イリノイ州

〈第4問〉世界で2番目に会員数の多いライオンズ国は？

a. インド　b. 日本
c. 韓国

〈第5問〉次の三つのライオンズ国のうち最も会員数が多いのは？

a. 中国　b. 台湾
c. フィリピン

★回答は54㌻下

この日・この月

9月1日は防災の日、またこの日を含む1週間は**防災週間**として、防災知識の普及のためにさまざまな活動が行われる。1960年に閣議了承され制定された。9月1日は1923（大正12）年に関東大震災が発生した日であること、また台風シーズンが本格化する二百十日の時期に当たることから制定されたもので、前年59年の9月26日に伊勢湾台風で甚大な被害が発生したことが契機となった。伊勢湾台風は伊勢湾沿岸の愛知県・三重県を中心に全国に被害をもたらし、犠牲者は5千人を超え、4万人近くの負傷者が出た。日本のライオンズは59年9月末時点で東西2地区に141クラブがあり、会員数は7311人。被災者救援のために東西両地区から150万円と救援物資200梱包を送っている。

■訂正とお詫び

8月号「国際会長メッセージ」（4㌻）の文中にある「第98代目の国際会長」は、正しくは「**第99代目**の国際会長」でした。訂正しお詫び致します。

Official publication of Lions Clubs International

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　西川 義規
国際理事　安井 克之
国際理事　佐藤 宜之
委員長　塚田 雅二（333複合地区）
編集長　井村 一男（337複合地区）
委員　久津間康允（330複合地区）
委員　中嶋 辛（331複合地区）
委員　佐藤 義則（332複合地区）
委員　石井 博之（334複合地区）
委員　中村 房雄（335複合地区）
委員　寺越 愼一（336複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571（代）　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

編集室

ホノルル国際大会に参加して

ライオン誌
日本語版委員
◉
石井博之
（三重県・津中央）

ハワイ・ホノルルで開催された第98回国際大会は日本のライオンズクラブにとって、34年ぶりに日本人国際会長が誕生する記念すべき大会でした。事前に予想された通り日本から大勢の会員が参加し、すばらしい大会となりました。

山田實紘国際会長が国際第2副会長選挙に臨まれた2013年のドイツ・ハンブルク国際大会は、日本から遠く離れたヨーロッパでの開催にもかかわらず、大会登録者数2万4749人のうち日本が3725人、代議員数4849人中、日本1004人でした。そして山田国際会長誕生のホノルル国際大会は、大会登録者数1万8132人中、日本は4159人、代議員数5308人中、日本907人となりました。代議員数は過去最多とのことでした。

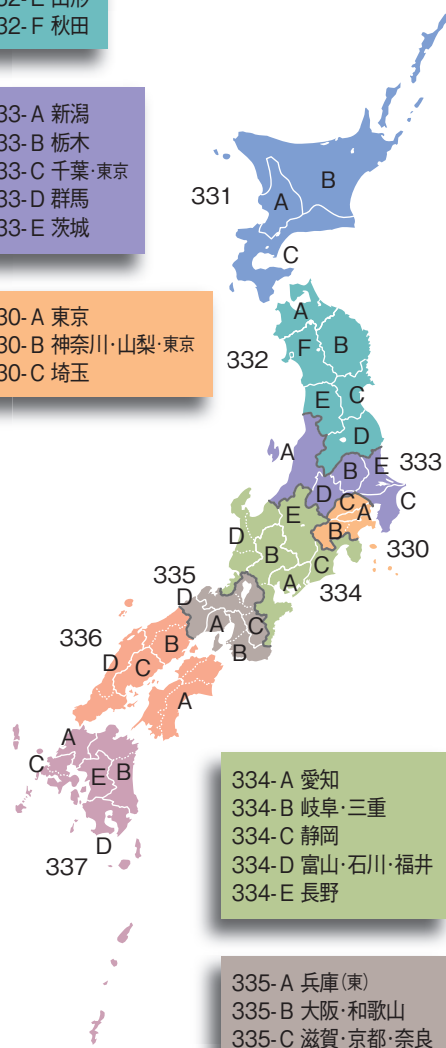
今大会の閉会式では山田国際会長ご夫妻が勇壮な軍艦マーチにのって登壇されました。日頃は他国に比べておとなしい日本のメンバーが大いに感激し、盛り上がりました。私も歓喜の渦に混じって日の丸の旗を振りながら会場を練り歩きました。プレストン前国際会長から引き継がれた山田国際会長誕生の瞬間に立ち会えたことは、ライオンズ・メンバーとして一生の思い出になることでしょう。

これまで国際大会には、08年のタイ・バンコクでの国際大会（第91回）から今回まで連続して参加しています。いずれもそれぞれに思い出のある大会ですが、やはり私自身が地区ガバナーに就任させて頂いた09年のアメリカ・ミネソタ州ミネアポリスでの国際大会（第92回）と今回のホノルル国際大会が、最も記憶に残る大会になったと思っています。

ホノルルからの帰路、偶然、山田国際会長ファミリーと同じ便に乗り合わせ、ご家族の和気あいあいとした雰囲気を間近で拝見しました。これからの1年間、健康に十二分に留意され、日本のライオンズクラブ、世界のライオンズクラブの発展のためにご尽力頂きたいとの思いを新たに致しました。

日本ライオンズクラブ分布図

2015.7.31　eMMR ServannA報告による

地区	クラブ数	会員数	増減	男女別会員数		家族会員数			
				男性	女性（割合）	子会員	増減	男性	女性
330-A	203	6,431	6	4,683	1,748（27.2）	1,817	-12	590	1,227
330-B	166	4,849	80	4,003	846（17.4）	616	16	164	452
330-C	87	2,429	-4	1,956	473（19.5）	402	-12	115	287
330 計	456	13,709	82	10,642	3,067（22.4）	2,835	-8	869	1,966
331-A	73	2,799	29	2,255	544（19.4）	502	2	100	402
331-B	85	2,748	69	2,233	515（18.7）	452	19	61	391
331-C	53	1,974	21	1,641	333（16.9）	304	-2	78	226
331 計	211	7,521	119	6,129	1,392（18.5）	1,258	19	239	1,019
332-A	64	2,105	24	1,659	446（21.2）	336	5	71	265
332-B	53	2,438	23	1,622	816（33.5）	801	6	128	673
332-C	68	1,835	15	1,315	520（28.3）	473	-10	94	379
332-D	73	2,441	29	1,907	534（21.9）	479	5	99	380
332-E	56	2,041	18	1,610	431（21.1）	367	3	56	311
332-F	45	1,397	-2	1,033	364（26.1）	306	-7	47	259
332 計	359	12,257	107	9,146	3,111（25.4）	2,762	2	495	2,267
333-A	75	3,356	48	2,621	735（21.9）	713	3	165	548
333-B	51	1,579	16	1,055	524（33.2）	418	3	95	323
333-C	133	3,778	-2	2,885	893（23.6）	710	-11	258	452
333-D	53	2,332	6	1,712	620（26.6）	638	-2	147	491
333-E	79	4,394	47	2,915	1,479（33.7）	1,624	6	408	1,216
333 計	391	15,439	115	11,188	4,251（27.5）	4,103	-1	1,073	3,030
334-A	119	7,130	84	4,708	2,422（34.0）	2,487	28	503	1,984
334-B	81	5,411	22	3,477	1,934（35.7）	2,282	0	524	1,758
334-C	80	3,799	22	2,981	818（21.5）	784	0	112	672
334-D	99	6,218	39	3,968	2,250（36.2）	2,381	-8	410	1,971
334-E	52	2,603	28	1,870	733（28.2）	747	0	195	552
334 計	431	25,161	195	17,004	8,157（32.4）	8,681	20	1,744	6,937
335-A	83	2,187	31	1,752	435（19.9）	190	5	29	161
335-B	170	6,626	81	4,892	1,734（26.2）	1,463	35	299	1,164
335-C	120	4,200	81	3,526	674（16.0）	420	30	91	329
335-D	65	2,006	8	1,627	379（18.9）	261	-4	71	190
335 計	438	15,019	201	11,797	3,222（21.5）	2,334	66	490	1,844
336-A	148	6,235	44	4,724	1,511（24.2）	1,127	-2	198	929
336-B	95	3,140	22	2,682	458（14.6）	210	-2	33	177
336-C	96	3,195	17	2,955	240（ 7.5）	37	-1	10	27
336-D	95	3,226	2	2,836	390（12.1）	200	0	19	181
336 計	434	15,796	85	13,197	2,599（16.5）	1,574	-5	260	1,314
337-A	116	5,816	108	4,116	1,700（29.2）	1,439	57	313	1,126
337-B	69	3,000	11	2,151	849（28.3）	847	9	170	677
337-C	82	4,382	40	2,863	1,519（34.7）	1,584	33	450	1,134
337-D	78	2,458	37	2,098	360（14.6）	207	15	33	174
337-E	57	1,693	30	1,435	258（15.2）	142	4	47	95
337 計	402	17,349	226	12,663	4,686（27.0）	4,219	118	1,013	3,206
総計	3,122	122,251	1,130	91,766	30,485（24.9）	27,766	211	6,183	21,583

世界のライオンズ

2015.7.31　国際協会集計

国または領域………210　クラブ数 ………46,509
会員数 ……1,370,673　会員数増減 ……-7,231

ライオン誌9月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費78円
2015年(平成27年)8月20日発行　毎月1回20日発行　第58巻第3号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 Tel 03-3542-9571
印刷所　凸版印刷株式会社

99th ライオンズクラブ国際大会

～福岡市にて開催～

期間　2016年6月24日(金)～28日(火)

スローガン「動き出そう!人々のために、世界のために」
Do for People Do for World

今、世界はライオニズムの情熱と献身的な奉仕を切望しています。
全ての国家と民族に自由と正義を保証する平和を実現するために、世界中のライオンは堅く団結し、人々の期待に応えようではありませんか。

創立100周年のシカゴ大会を目前にして、2016年には当地福岡にて「第99回ライオンズクラブ国際大会」が挙行されます。
全世界から多くのライオンが一堂に会し、感動的で有意義な誇るべき大会になることでしょう。
ホスト委員会(MD337)をはじめ、福岡県、福岡市、地元の様々な民間企業が一体となって
おもてなし(OMOTENASHI)の心で皆様をお迎えできるように、総力を挙げて取り組んでまいります。

ぜひともご登録・ご参加賜りますよう、心よりお願い申し上げます。福岡が皆さんをお待ちしています!
※二行目はメルビン・ジョーンズのお言葉です。

主要会場

・本部ホテル

・インターナショナルショー　・初日総会(開会式)
・2日目総会　・最終日総会(閉会式)

・展示ホール　・物販ブース　・フードコート
・投票

・大会登録　・参加キット受け取り　・セミナー
・会議

提供:福岡市

第99回 ライオンズクラブ国際大会　ホスト委員会事務局
〒810-8650 福岡市中央区地行浜2-2-3　ヒルトン福岡シーホーク
Tel／092-407-8199　Fax／092-407-8948　E-mail／lc99intcnv@iaa.itkeeper.ne.jp
http://lions99-fukuoka.jp